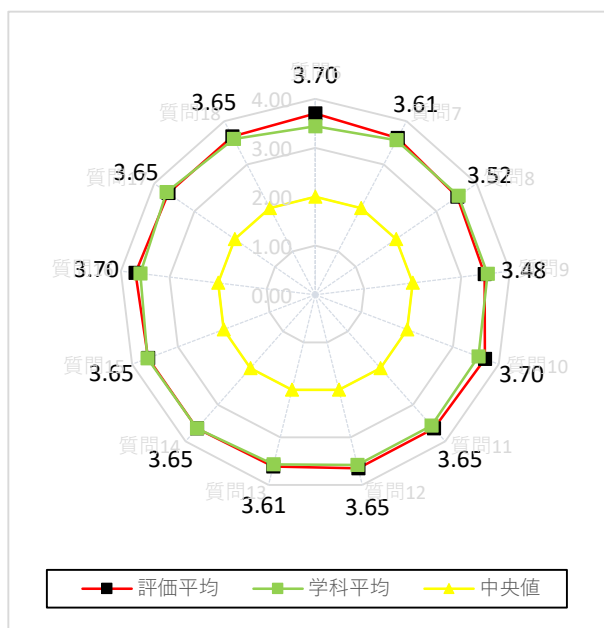
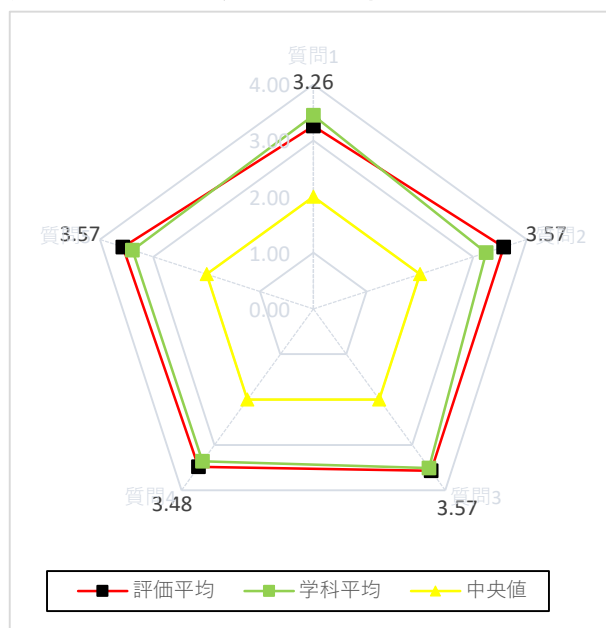


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		あすなろう（初年次教育含）	41名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

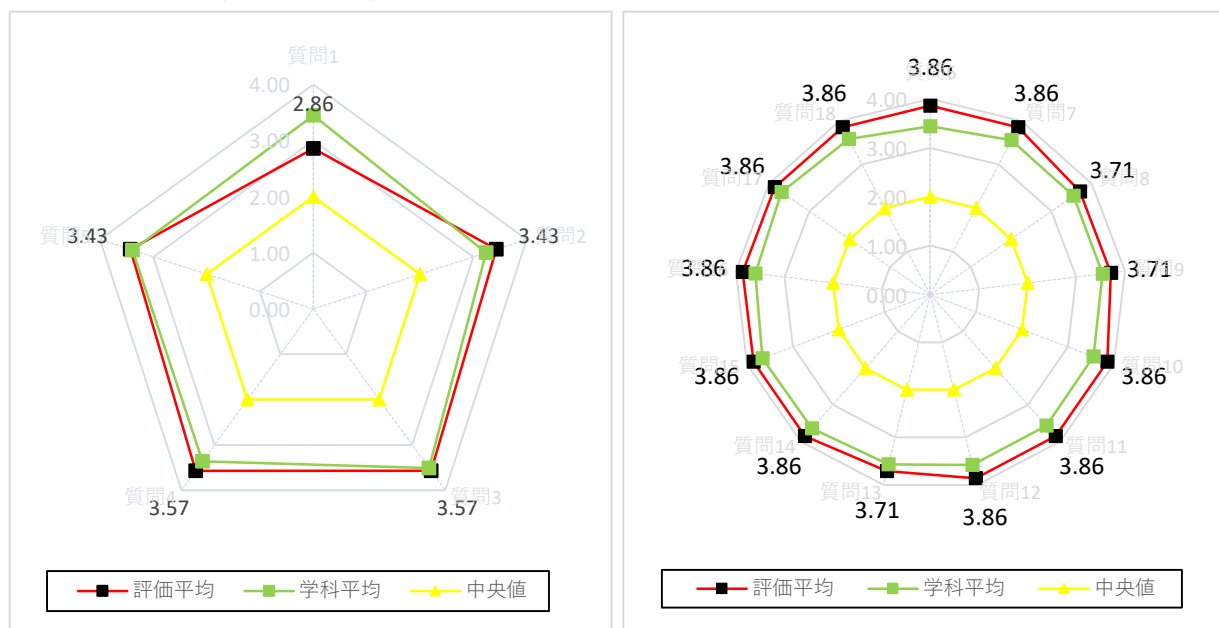
各質問に対して概ね3.5以上と高い評価をいただいた。

（３）次年度に向けての取り組み

課題によっては提出の締め切りや課題の内容を理解していない学生もいたので、学生が理解できるように説明を工夫したいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		あすなろう（初年次教育含）	18名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

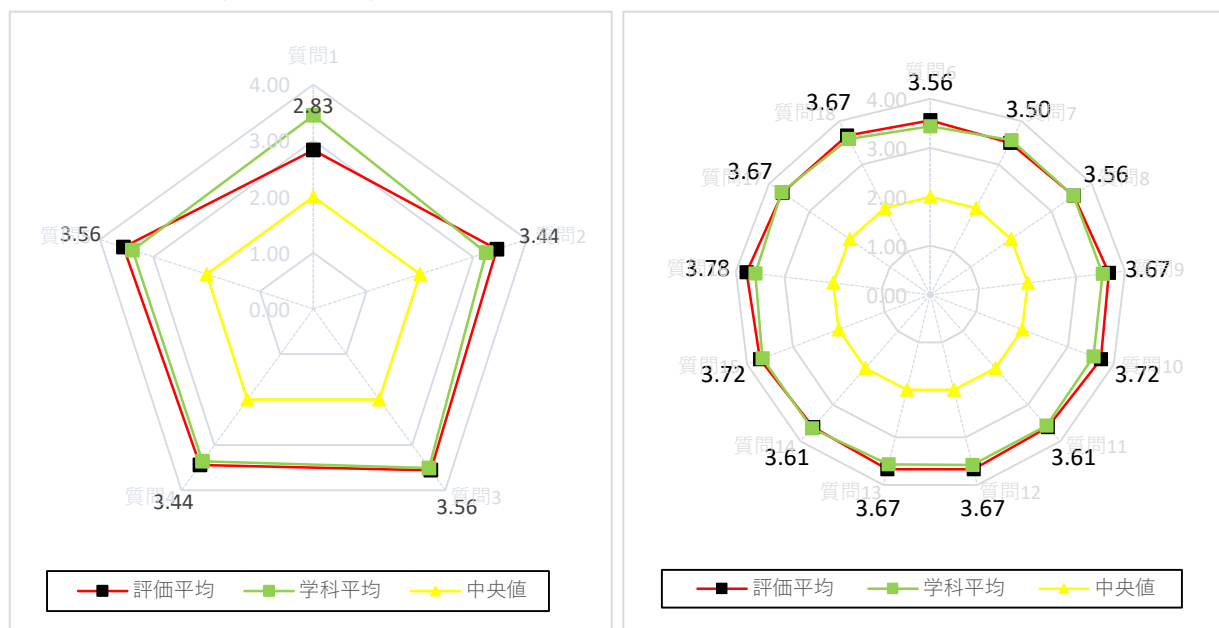
質問1欠席の項目のみ学科平均を下回っていた。
 学生には適宜指導を行ったが、不足していた可能性もある。

（３）次年度に向けての取り組み

担任・副担任と連携し、適宜指導を継続していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		ウェルネス・スポーツ	31名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

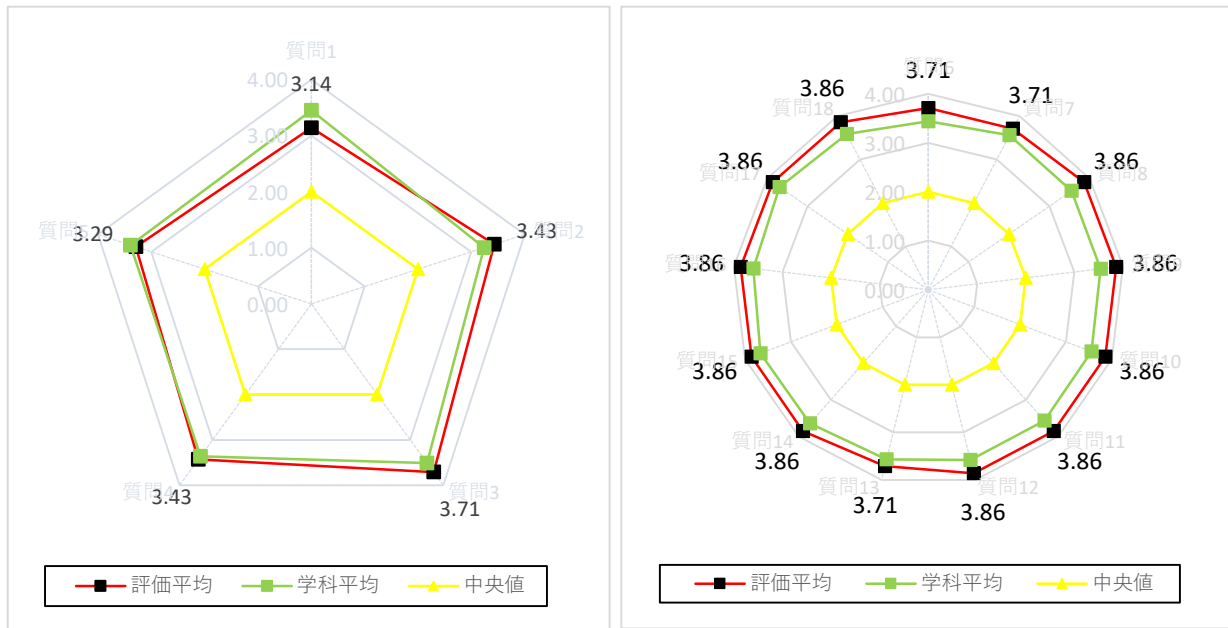
この講義（後期）は、これまで履修者数が多かったため2クラスに分け実施していたが、今年度は非常勤の教員による1クラスで実施した。アンケートの回答数は、31名中18名であった。質問1についてのみ学科平均を下回っていたが、欠席状況の詳細については判断できなかった。他のすべての質問において、学科平均が平均を上回っており講義自体は高く評価できる。（栗原）

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度については、担当者と講義の評価を総括し取り組む。（栗原）

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		データサイエンス演習	18名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

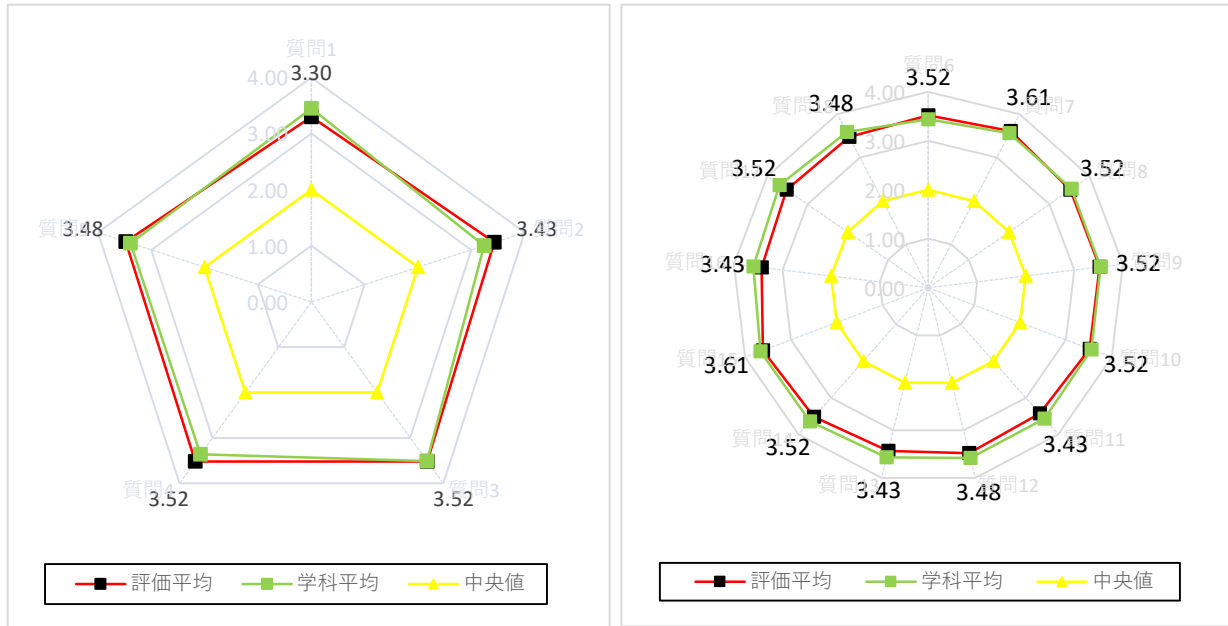
質問1の欠席回数以外は学科平均を上回っていた。
欠席している学生については、適宜声かけ等を行っていたが、不十分だった可能性もある。

(3) 次年度に向けての取り組み

欠席状況を適時確認し、担任・副担任とともに連携を深めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		データサイエンス演習	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

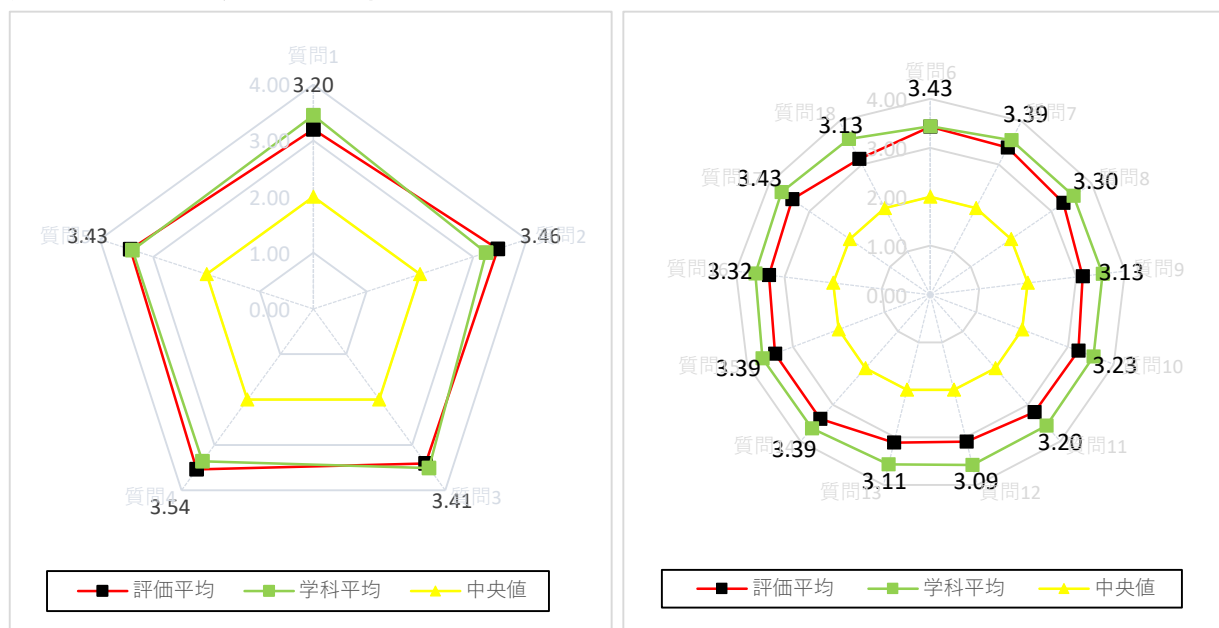
各項目3.5前後と高い評価をいただいた。

(3) 次年度に向けての取り組み

課題について、理解できるように説明の工夫などが必要だと感じた。次回より改善していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		解剖学 I	92名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

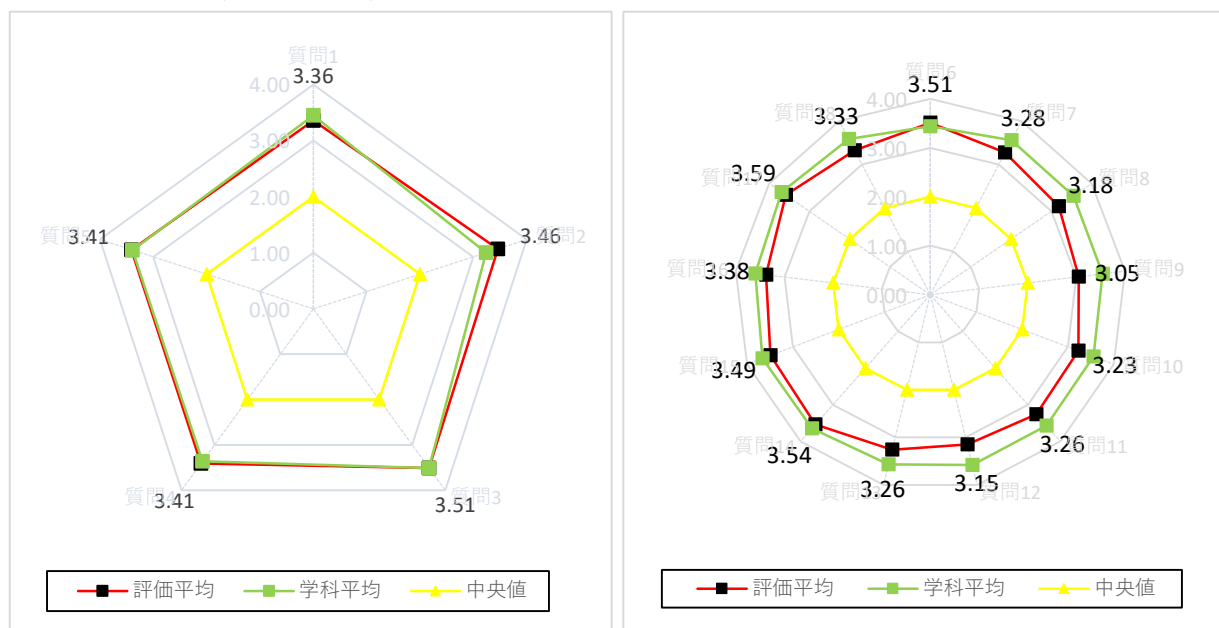
各質問に対して概ね3以上の評価をいただいたが、学科平均に至らなかった質問項目もありました。

(3) 次年度に向けての取り組み

再履修者を含め、90名以上の授業における個々人の気配りが難しく、課題によっては内容を理解していない学生もいたので、学生が理解できるようにもっと工夫したいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		解剖学Ⅱ	73名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

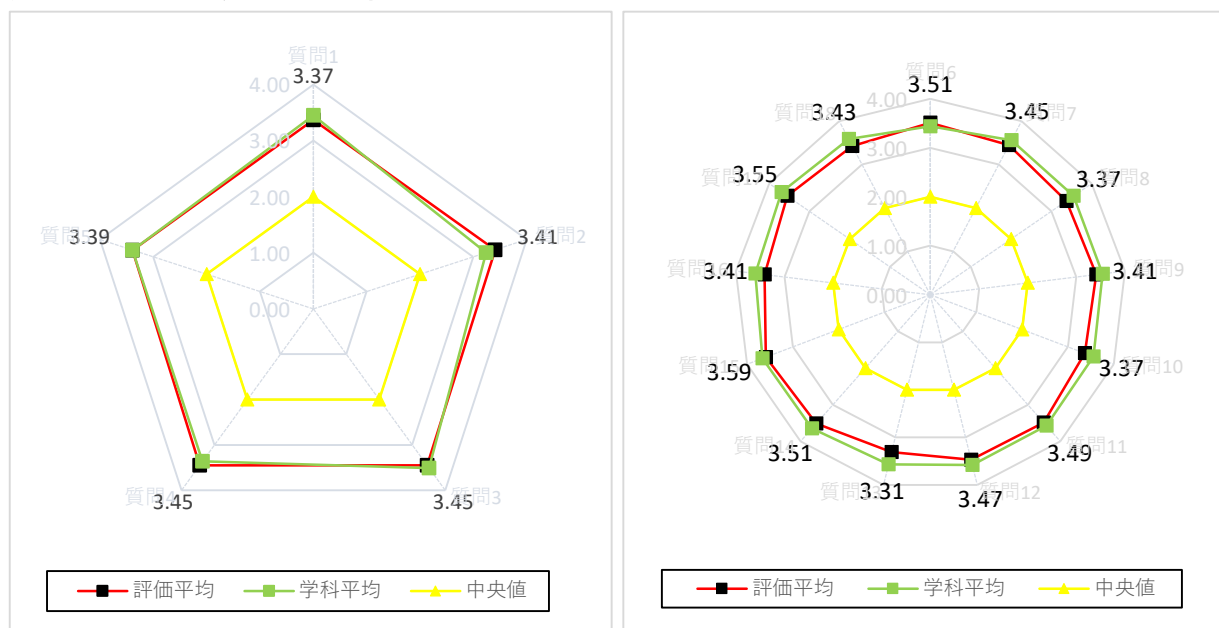
各質問に対して概ね3以上の評価をいただいたが、学科平均に至らなかった質問項目もありました。

(3) 次年度に向けての取り組み

再履修者を含め、70名以上の授業における個々人の気配りが難しく、課題によっては内容を理解していない学生もいました。他の授業を参考しながら、学生が理解できるようにもっと工夫したいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学 I	80名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

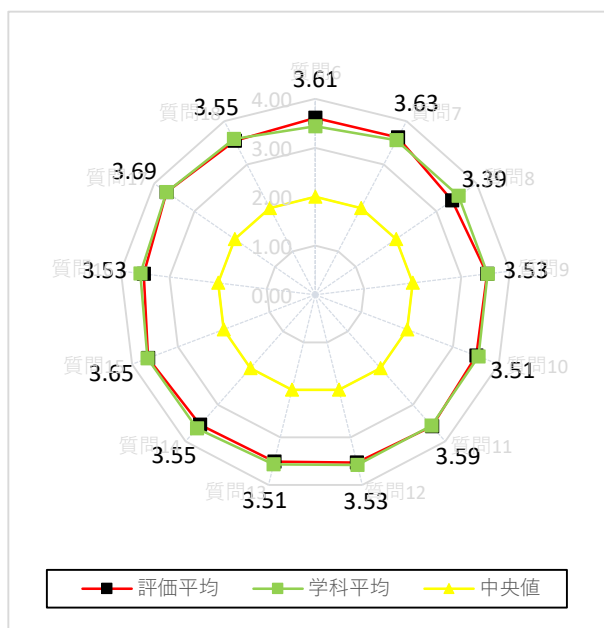
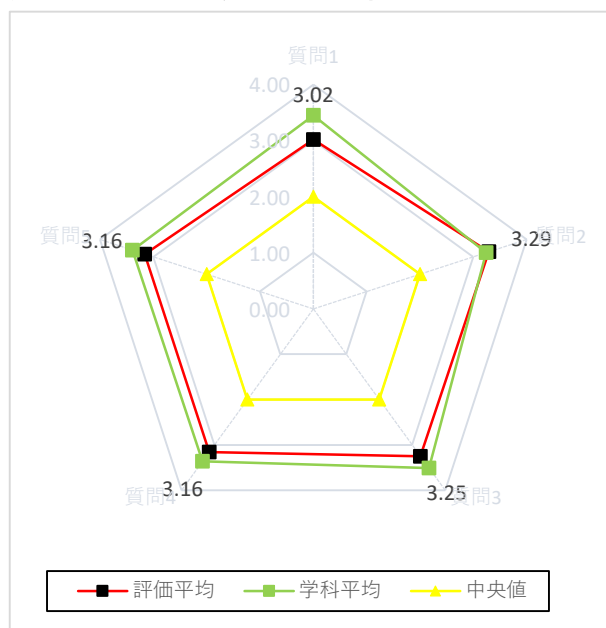
履修者80名中49名からの回答を得た。
平均的な点数であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

自由記入に資料を配布して欲しいという意見があったので、資料の配布を検討する。
試験勉強用に資料を配布したら、講義中に資料課題に集中して講義を聞いていない学生が目立った。今後は改善したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学Ⅱ	75名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

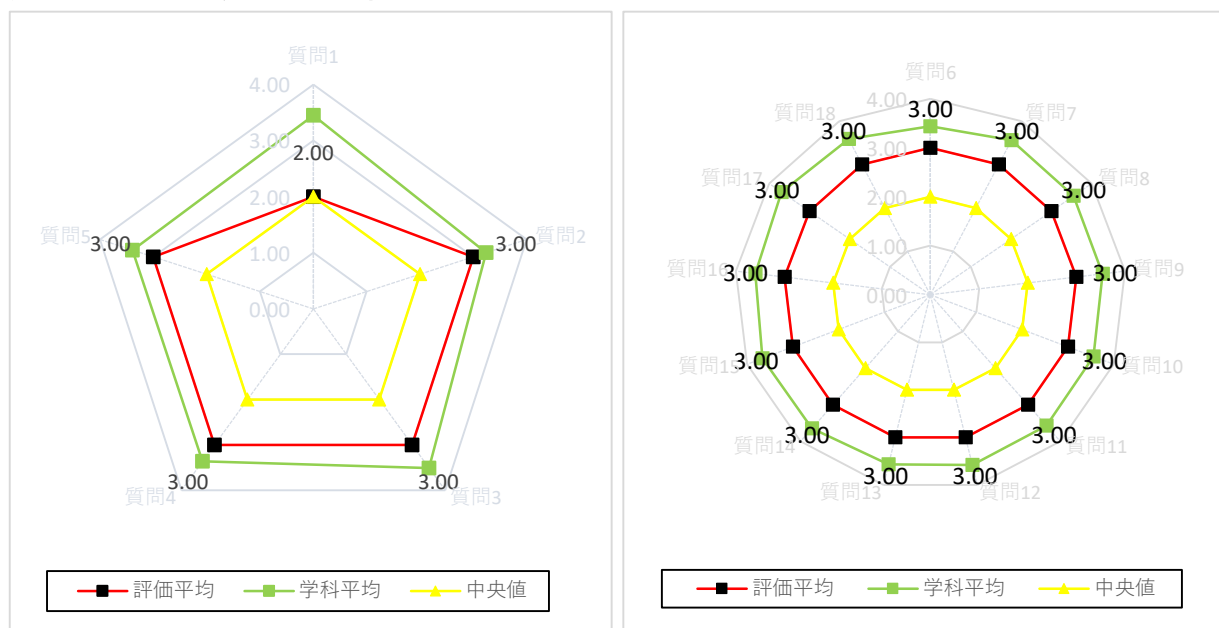
履修者75名中、51名の回答を得た。
平均的な点数が得られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

中間試験を行って欲しいという自由記入があったが、現状、寝坊や掲示見落とし学生がみられ、試験期間中でない時期に試験を行い欠席された際の取り扱いが難しい。正当な対応であっても意義を申し立てをされることがある。今後、試験に対する対策を検討する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		人間発達学	1名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

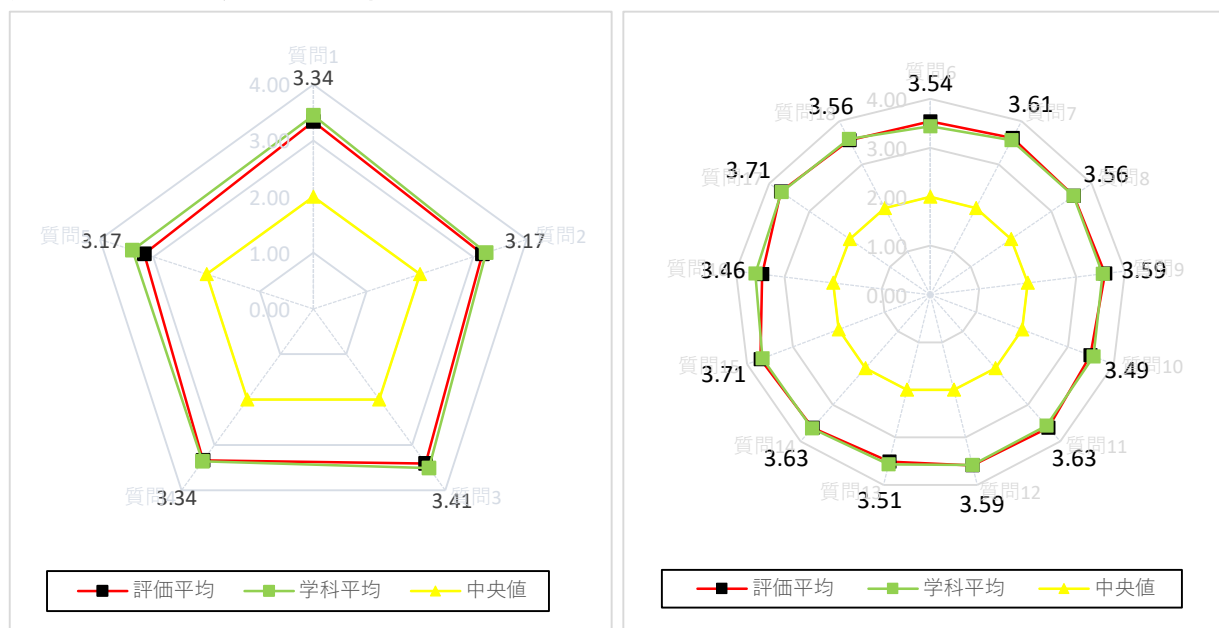
再履修の学生向けに本年度は特別に開講した。週1回課題を課して、フィードバックや講義補足を行った。提出日を守れないことも多く、フォローが多量に必要であったが、最後までどうにか完遂出来た。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は再履修クラスは開講予定なし。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		人間発達学	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

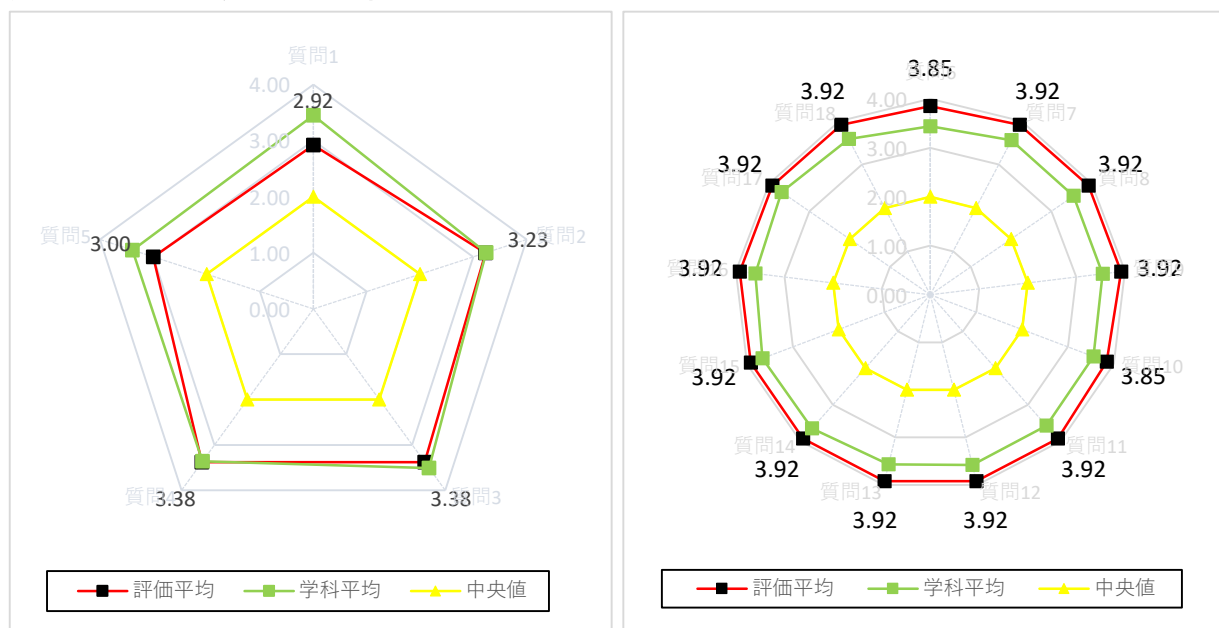
1年生前期必修科目であり、授業の進め方や板書、プリント活用など丁寧に説明した。シラバスについては初回講義時に予定表を別途作成し、配布したが大学の講義について不慣れな1年生には初回講義では理解が難しかったと思われる。また1年次より人間発達学の講義が国家試験や上位学年の講義にどのように結びついていくのかを具体例を示し講義を行った。自己学習の援助や学習到達度が自分で把握できるような取り組みが次年度以降必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度より数年ぶりに専攻別の講義ではなく両専攻合同での講義となる。人数も増えることからノートなどをチェックしながら、講義への理解が乏しい学生へのフォローに努めたい。また学習意欲の高い学生については国家試験問題を使って講義内容のアウトプットをはかりたい。シラバスの活用については、初回講義時だけでなく、随時シラバスを使い講義の進捗状況を説明する。また記述式の試験問題に苦労している学生が多くいたので、講義中も文章でまとめる機会を増やしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学	18名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

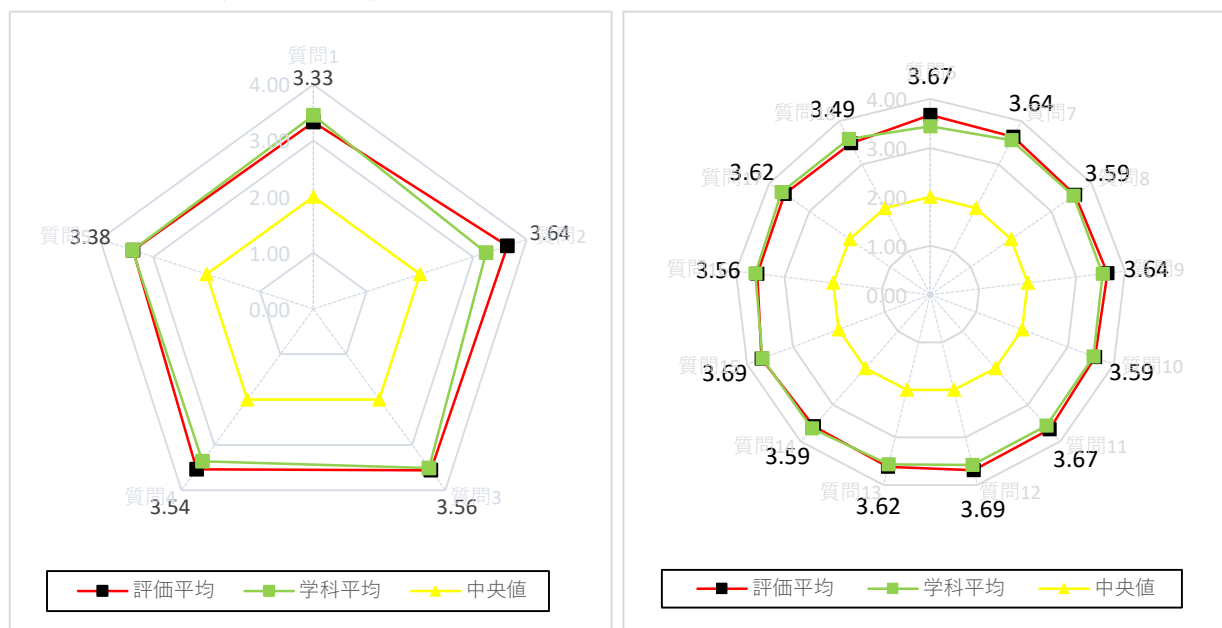
質問1～質問5の学生個人に関する項目については、学科平均を若干下回っていた。
 全ての項目について学生指導を行っていたが、不十分だった可能性がある。
 講義内容に関する質問6～質問18についてはすべて学科平均を上回っており、上記の学生指導は一定の成果はあったのではないかと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

質問1～質問5の学生個人に関する項目について、担任・副担任との連携をより密に実施していく。
 また、学生の自主的な学びが進むように、講義中についても適宜シラバスを活用していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学 I	51名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

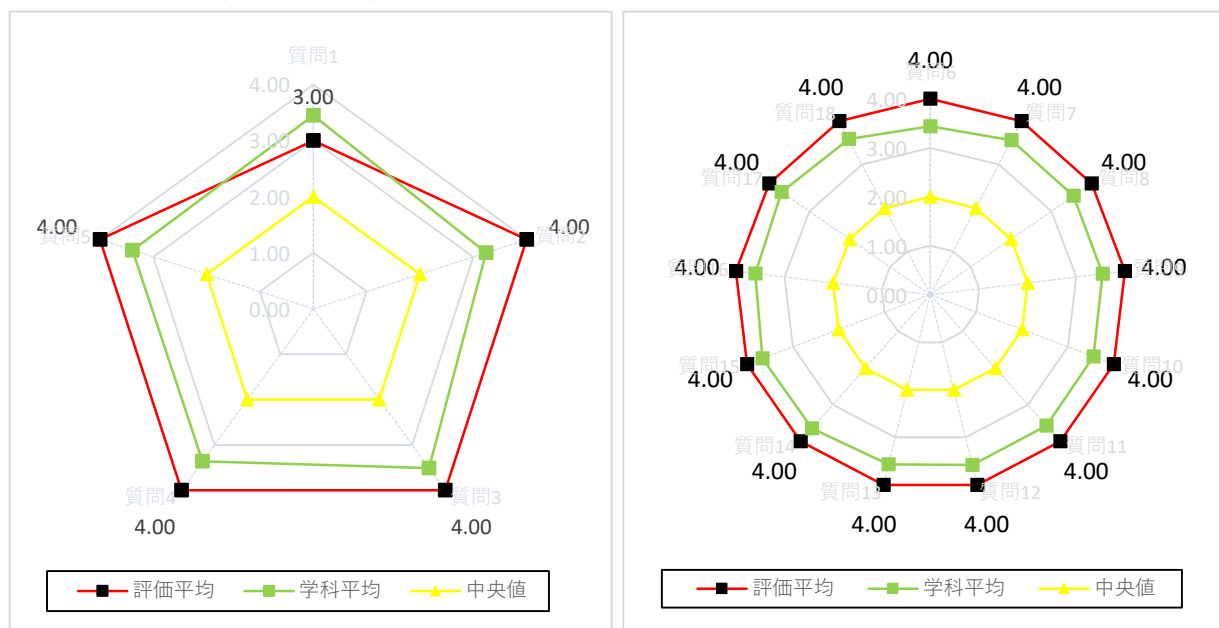
各項目、概ね3～3.5とよい結果であった。しかし、再試験者の数が多かったため、教科書や資料、講義のわかりやすい工夫は必要だと感じた。

(3) 次年度に向けての取り組み

教科書を理解しやすいものに変更し、受動的な講義だけではなく、グループワークを交えながら能動的な学習環境を作っていく予定である。また、国家試験の基礎となる科目であるため、学習しやすいようにノートを作成していく予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		医学英語	3名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

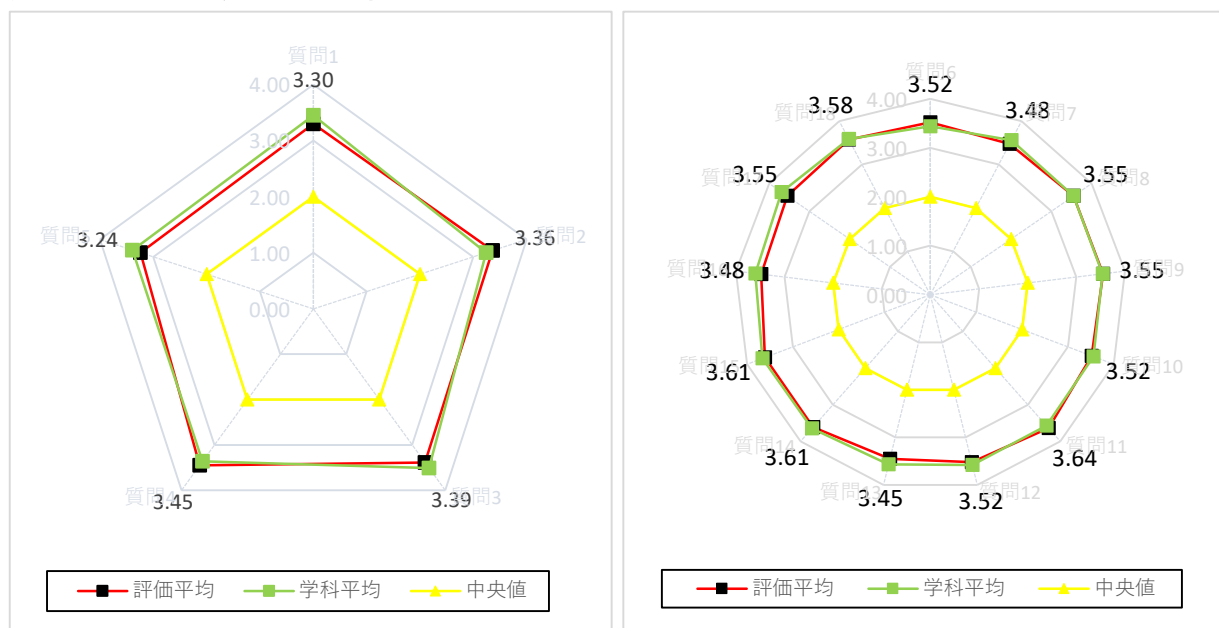
ほとんどの項目で4と高い評価をいただいた。しかし、講義開始時には10名ほどいた学生が、履修登録変更期間に7名キャンセルし、最終的には3名となった。講義に興味関心が持てる工夫が必要だと感じた。

(3) 次年度に向けての取り組み

海外での臨床経験を活かし、学生が実践的に医学英語を学べるように講義内容を工夫する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学Ⅱ	48名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

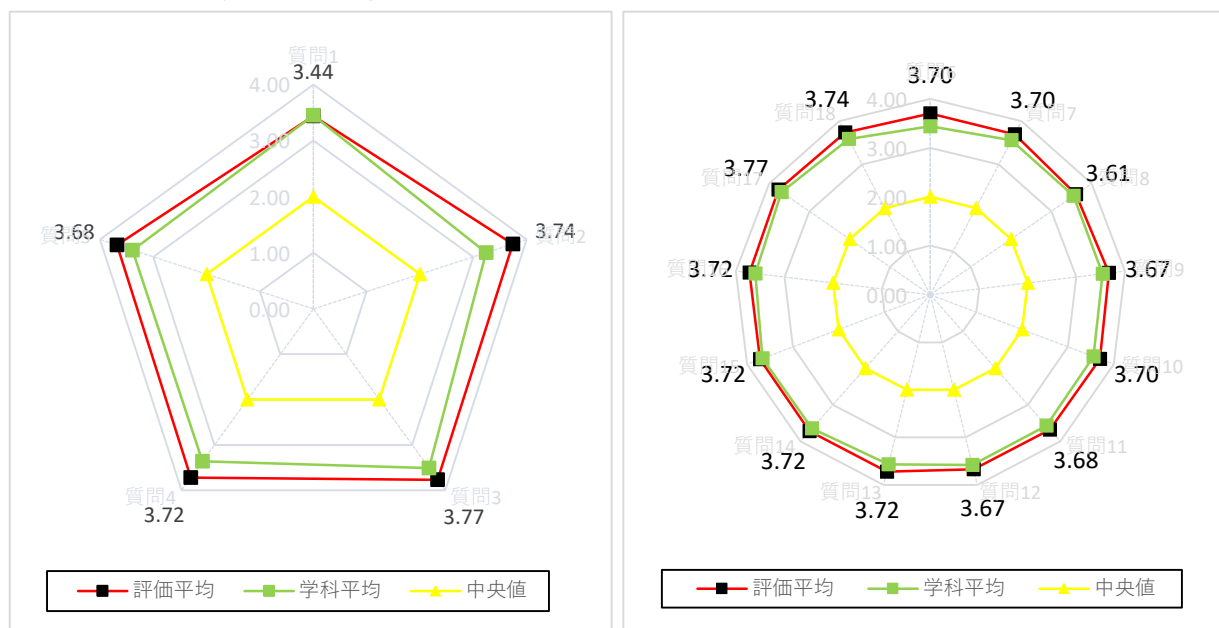
各項目3～3.5と比較的良好な結果であった。しかし、再試験者が多く、興味、関心を持たせる工夫が必要だと感じた。

(3) 次年度に向けての取り組み

教科書を理解しやすいものに変更し、受動的な講義だけではなく、グループワークを交えながら能動的な学習環境を作っていく予定である。また、国家試験の基礎となる科目であるため、学習しやすいようにノートを作成していく予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		解剖学実習	71名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

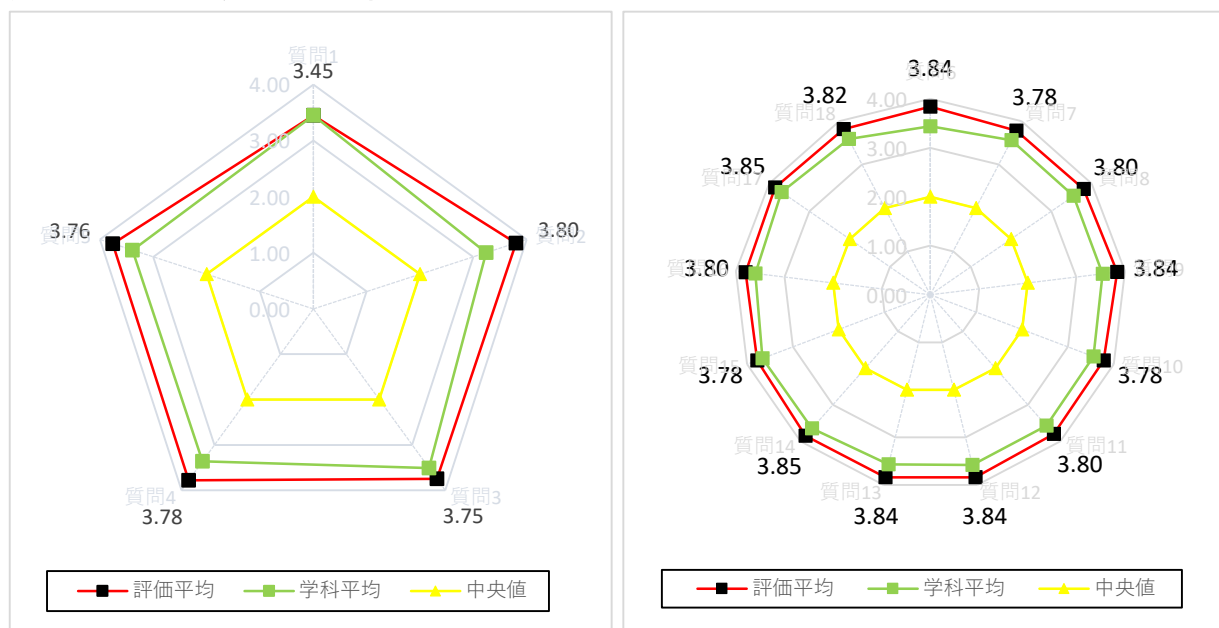
概して学科平均3.5以上の評価を得り、単純の座学よりも、実技をともなう演習系講義のほうがもっと高い評価を得た。

(3) 次年度に向けての取り組み

再履修者を含め、70名以上を2班分けて同時進行する授業内での個々人の気配りが難しく、学生全員が理解できるようにもっと工夫したいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学実習	71名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

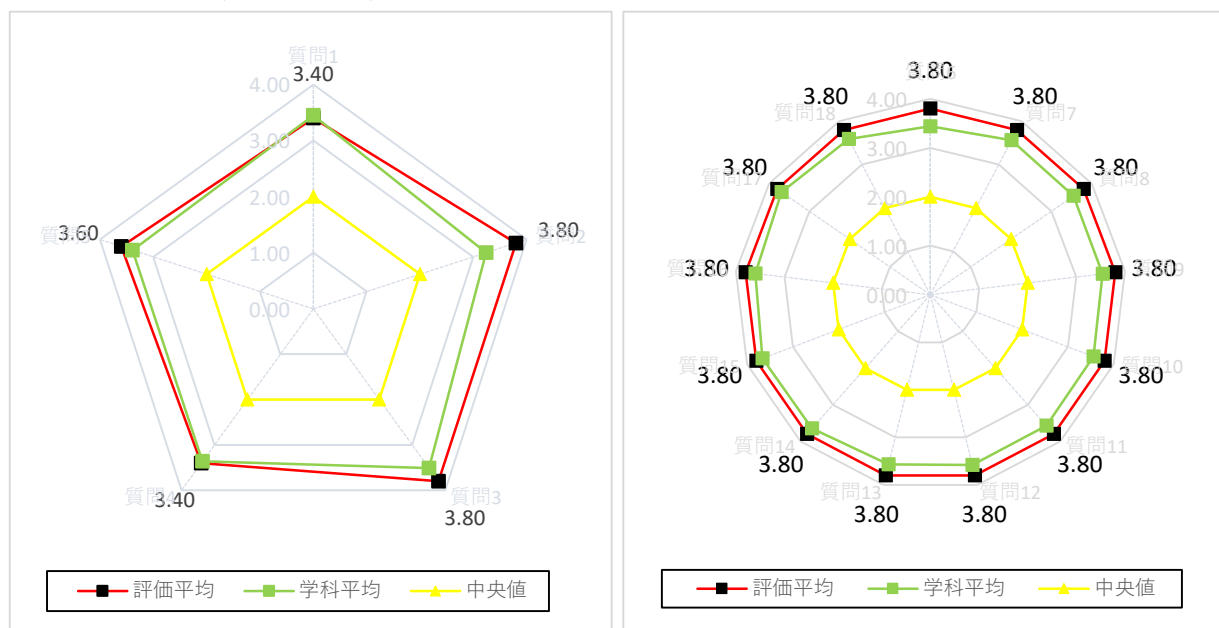
71名中55名の回答があり、理学療法学専攻学生の回答が多かった。
学科平均を上回る評価となった。

(3) 次年度に向けての取り組み

レポート課題を提出しない学生が数名いた。今後、課題の取り組み方について検討する必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学演習	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

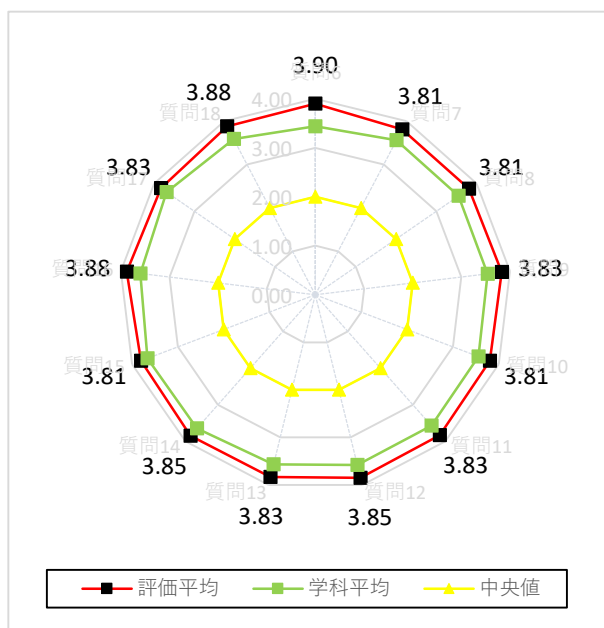
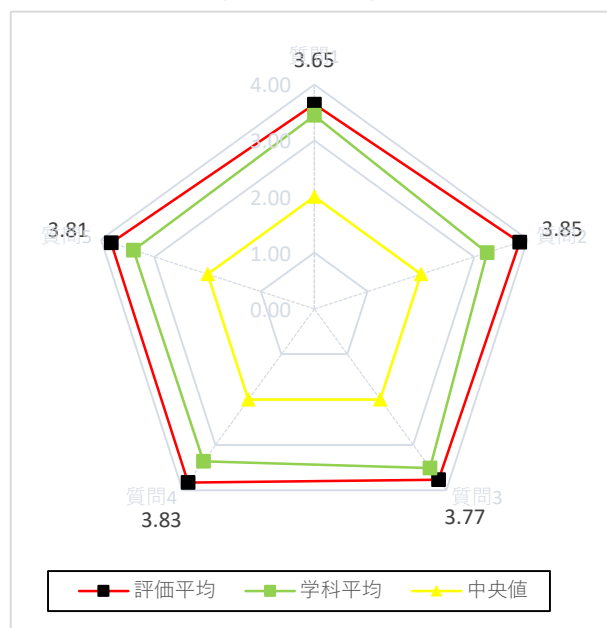
「質問4あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか」のみ学科平均を下回っていた。演習系の講義であるため、予習・復習の内容についてイメージが付きにくかった可能性がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

演習系科目として、「次回の講義までに必要な予習及び復習の内容」について明確に提示できるように準備を進める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学実習	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

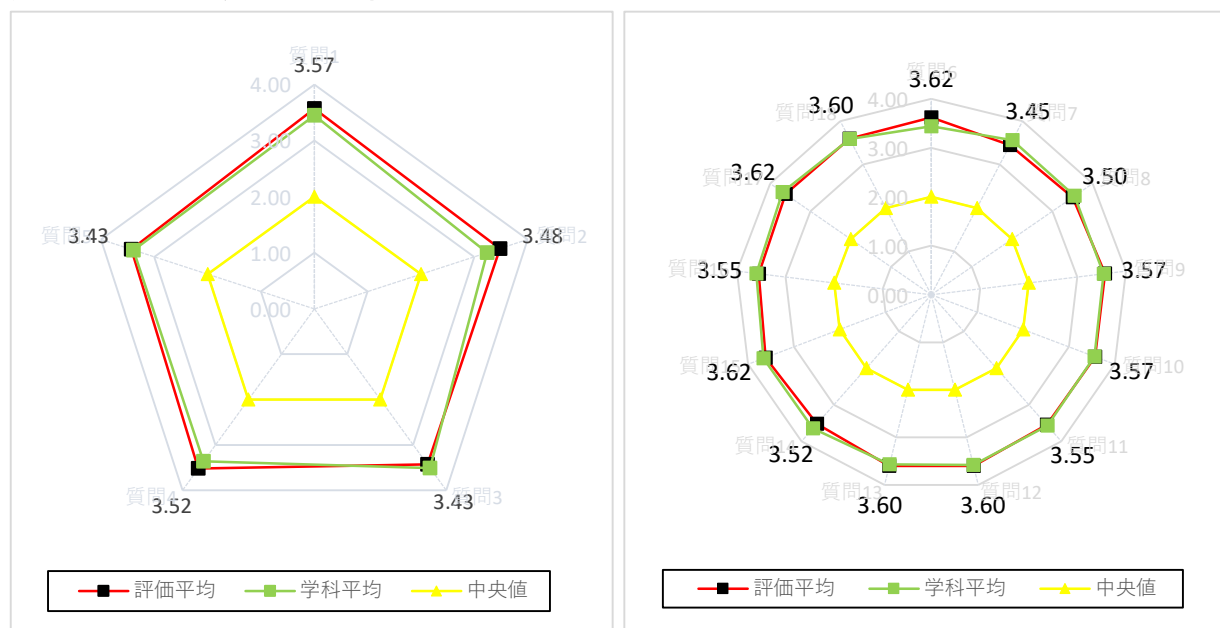
各項目 3.5～4 と高い評価をいただいた。

(3) 次年度に向けての取り組み

運動学を実践的に興味を持って学べるように今後も工夫していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		リハビリテーション概論	62名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

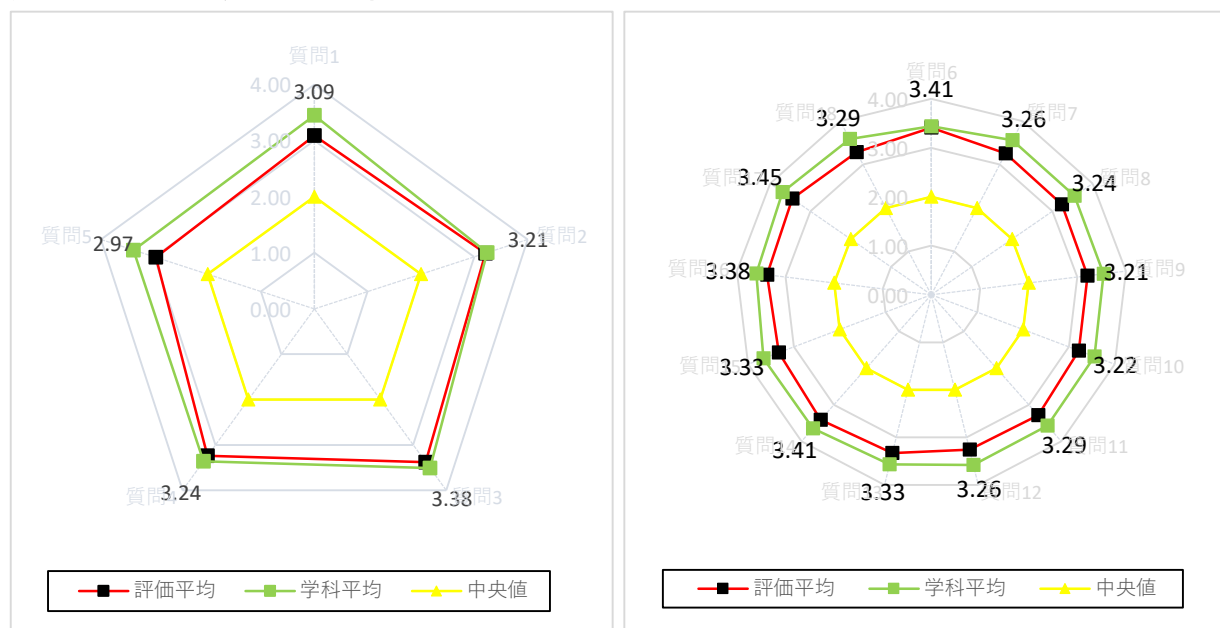
この授業での学生の自己評価は3.43/4.00点であり、授業の総合評価は3.60/4.00点であった。
評価が低かった項目は、授業中に居眠りや私語等をせずに真剣に取り組んだか？が3.43/4.00点であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義中にグループワークで考えさせ、学生同士および教員とのディスカッション形式で講義を実施したことから、私語をしたと回答したと思われる。講義の展開上、問題にはならない。専門分野への導入科目であることから、よりいっそう興味を持てるように工夫を凝らしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		リハビリテーション医療	59名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

回答率：98%（58名/59名）。

学習者の総合自己評価（質問5）：良好 19%（11名/58名），概ね良好 62.1%（36名/58名），やや不良 15.5%（9名/58名），不良 3.4%（2名/58名）。

講義の総合評価（質問18）：良好 48.3%（28名/58名），概ね良好 37.9%（22名/58名），やや不良 8.6%（5名/58名），不良 5.2%（3名/58名）。

自由記述：「調べて解くことが楽しかった（1名）」「講師の声が小さい・プリントの解説が不明瞭（1名）」「説明が教科書通りで眠たくなった・スライド送りが早い（1名）」「ありがとうございました（1名）」「特になし（4名）」。

(3) 次年度に向けての取り組み

回答率は98%で満足できる結果となった。

学生の自己評価における「満足」「おおむね満足」は81.1%，講義に関する「満足」「おおむね満足」は86.2%で比較的好評価を得ている。

専門職を目指す学生にとって，1年後期に配置された「専門基礎科目」であることから，毎回講義で次の講義に関連した「課題プリント」を印刷，配布して事前学習を促し，次の講義の前半に「課題」の解説時間を設けている。

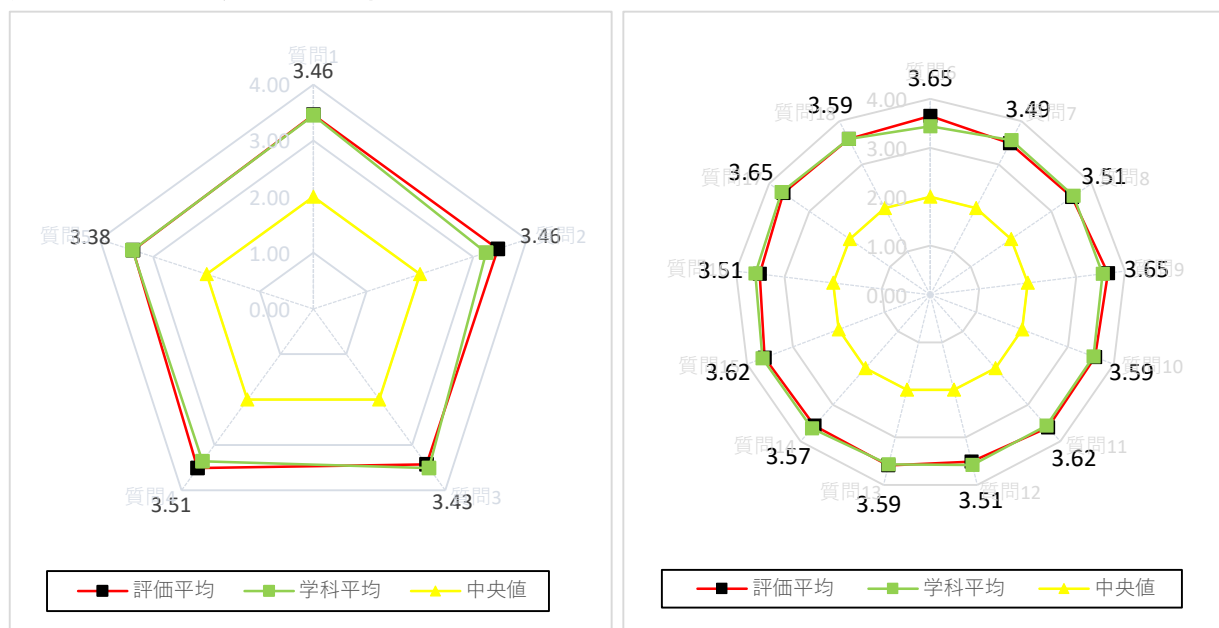
「課題」は，国家試験受験を意識した専門的かつ高度な内容であるが，専門職を目指す者としての自覚を促し，国家試験受験に向けた動機づけとしている。

また，「課題プリント」の提出をもって講義への出席を確認している。

引き続き，このシステムで学生の学修意欲を刺激していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学概論	43名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

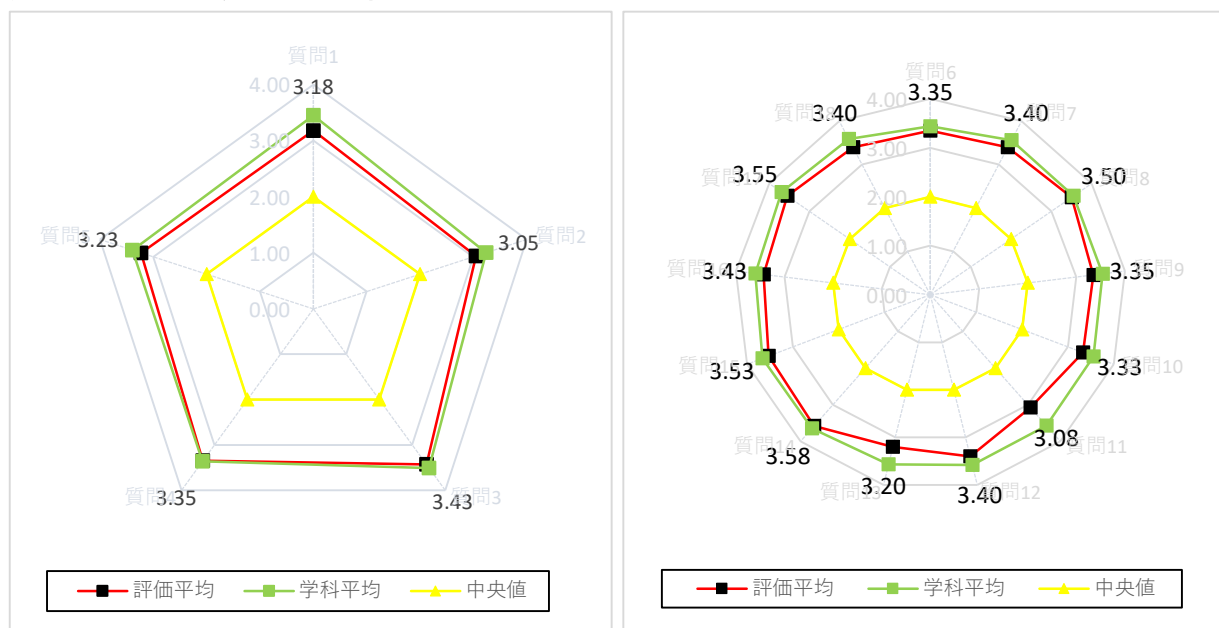
- ・ 総合評価（質問18）は、「満足・やや満足」が95%（35人／37人）であった。
- ・ 学生自身が講義に臨む態度の評価も、講義に関する評価も高かった。
- ・ 概ね良好であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。
- ・ また、実習の際に活用できるような知識を付与できる講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		基礎理学療法学	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

回答率：98% (40名/41名)。

学習者の総合自己評価 (質問5)：良好 30% (12名/40名)，概ね良好 62.5% (25名/40名)，やや不良 7.5% (3名/40名)，不良 0% (0名/40名)。

講義の総合評価 (質問18)：良好 57.5% (23名/40名)，概ね良好 27.5% (11名/40名)，やや不良 12.5% (5名/40名)，不良 2.5% (1名/40名)。

自由記述：「話しをするときに前から動かないで欲しい集中できない (1名)」「前期の復習もできる授業で良かった (1名)」「ありがとうございました (1名)」「特になし (4名)」。

(3) 次年度に向けての取り組み

回答率は98%で満足できる結果となった。

学生の自己評価における「満足」「おおむね満足」は92.5%，講義に関する「満足」「おおむね満足」は95.0%で比較的好評価を得ている。

専門職を目指す学生にとって、1年後期に配置された「専門科目」であることから、前期の履修科目（理学療法概論，リハビリテーション医学，解剖学，生理学，運動学等）で得た知識を臨床理学療法に結びつけることを意識して講義を行っている。

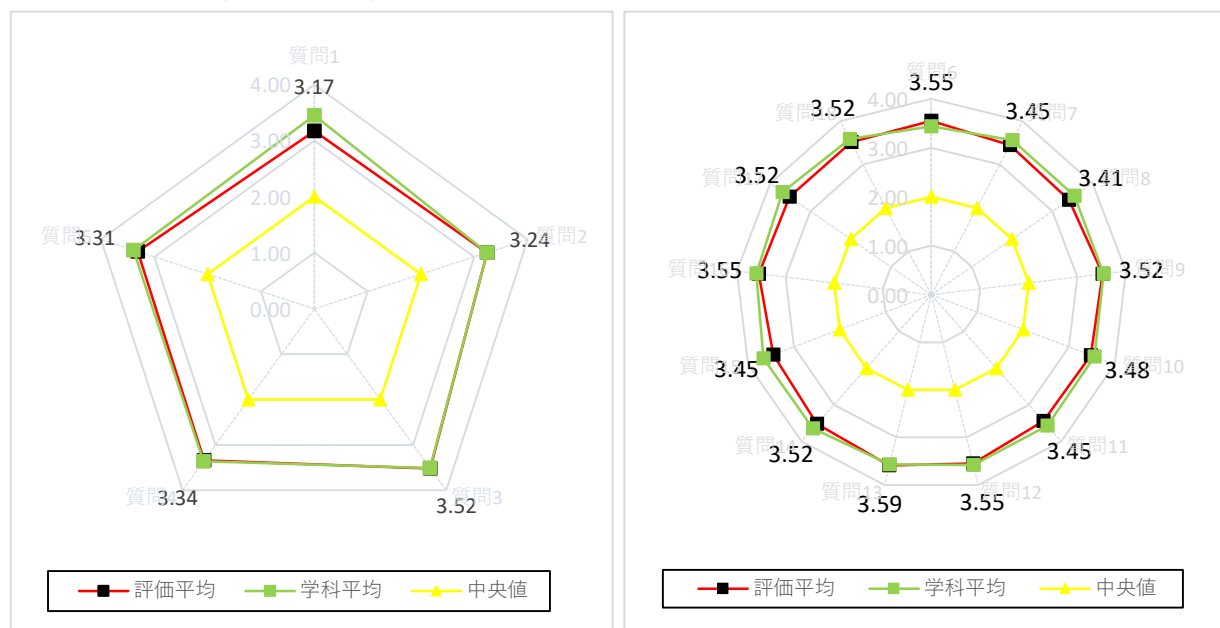
毎回の講義終了時に「ミニツツペーパー」の提出を課して講義の理解度を確認するとともに、双方向授業を意識して「ミニツツペーパー」に書かれた質問，感想については次回の講義で取り上げ，必要に応じて解説を行っている。

また、「ミニツツペーパー」の提出をもって出欠の確認を行っている。

引き続き，このシステムで学生の学修意欲を刺激していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学 I	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

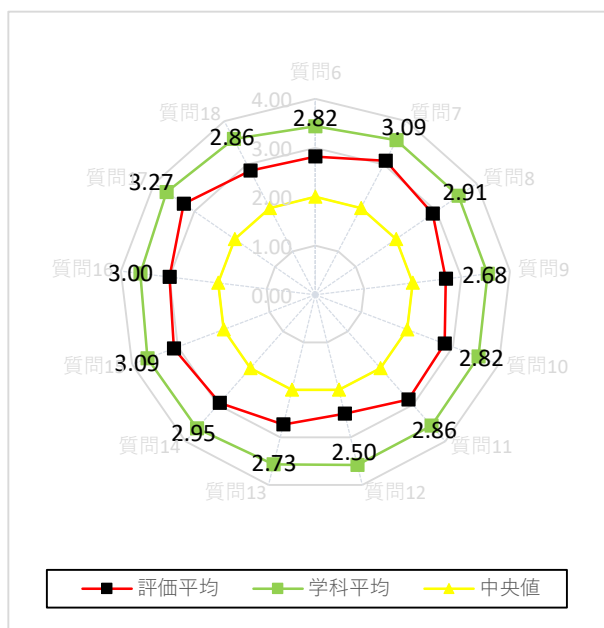
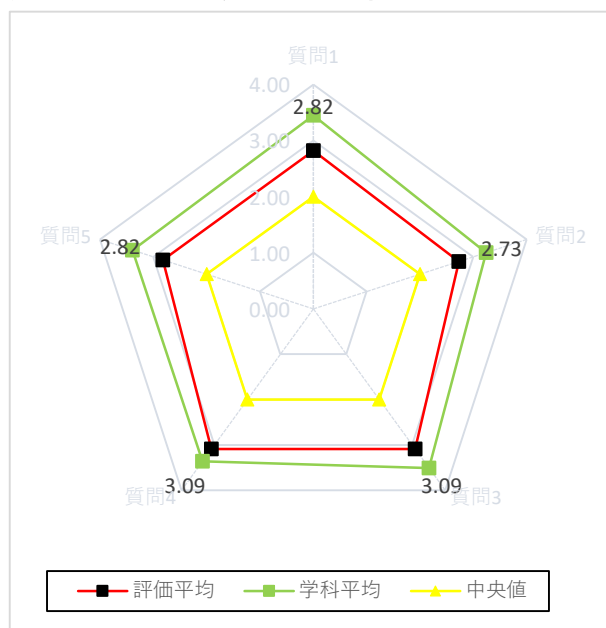
この科目の学生自身の自己評価は3.31/4.00点であり、この授業の総合評価は3.52/4.00点であった。学生自身の取り組みで評価が高かったのは授業中に居眠りや私語等をせず真剣に取り組んだか？3.52/4.00点であり、評価が低かったのは何回欠席したか？3.17/4.00点であった。講義方法への評価で評価が高かったのは授業の進む速さは適切か？3.59/4.00点であり、評価が低かったのは興味関心が持てるように工夫がされていたか？3.41/4.00点であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生自身の取り組みで評価が低かったのは、欠席せずに授業に参加したかである。専門科目であるものの対象が1年生であることから気が緩んでいたと思われる。また講義方法への評価で低かったのは、興味関心を持てるように工夫されていたかであった。動画や実症例の評価結果等を用いて講義の展開を検討してみる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		画像評価学	64名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

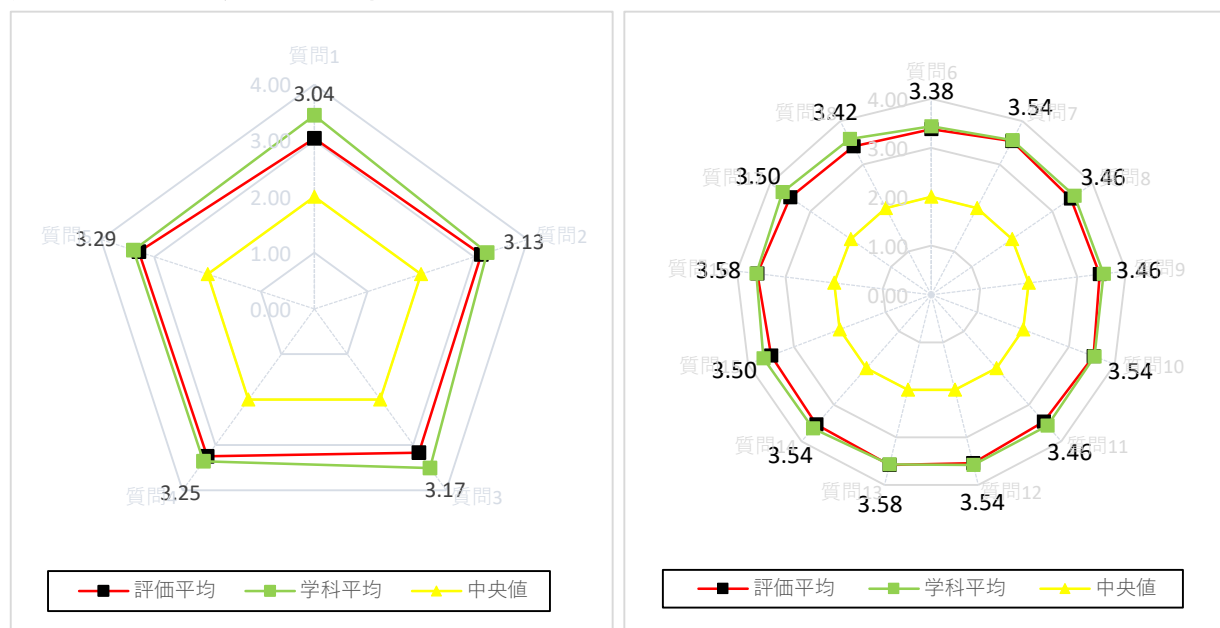
全体的に3前後の評価であり、学科平均未満でした。

(3) 次年度に向けての取り組み

初めての担当授業で様々な工夫をしたが、声の大きさや明瞭さ、話す速度を初め、他の授業を参考しながら、授業生理解度の改善をしていきたいと思っています。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		リハビリテーション栄養学	61名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

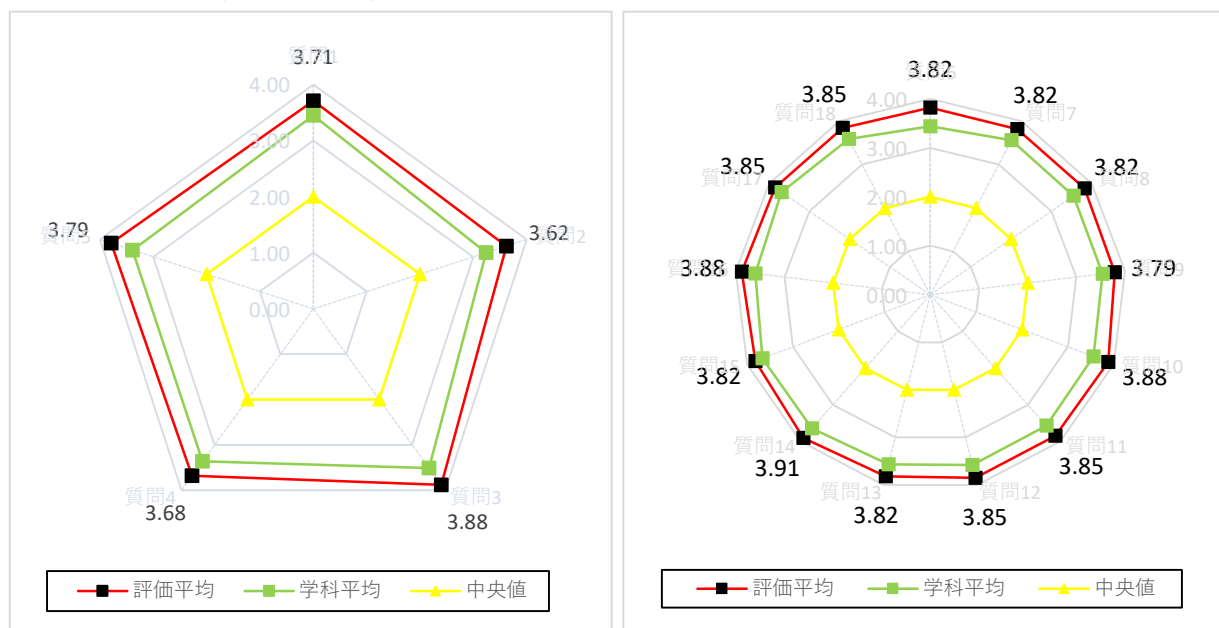
栄養学の授業評価においては、質問1から18までにおいて、ほとんどが学科平均か、やや下回っていた。この結果は、学生自身も関心が高くなく、興味を持ちにくい科目であることによるかも知れない。しかし、総合評価は3.42であったので、一定の理解は得たのかもしれないと感じる。栄養学はリハビリテーション学部の専門基礎科目の中の必修科目となっている。以前は選択科目で受講生が少ないために、リハビリを専門とする学生にとっては関心の薄い内容であった感もあるが、必須となってからは、学生も真剣に聞いている者が多くなったようである。

(3) 次年度に向けての取り組み

栄養学の授業評価においては、各質問項目のほとんどにおいて、学科平均に近いやや低い点数であった。今年度から必修となっている。今回からテキストを用い、学生の興味や関心が高め、管理栄養士と職場において協働していく上で役立つ知識を得られる内容にしたが、さらに進めていきたいと思う。映像などの視聴覚資料を取り入れ、パワーポイントや板書などにおいても、学生が作業しながら理解を深めていけるように工夫したいと考えている。職場において管理栄養士と協働するための基礎知識を得られるように、いっそう改善したいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		疾病予防と健康管理	62名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

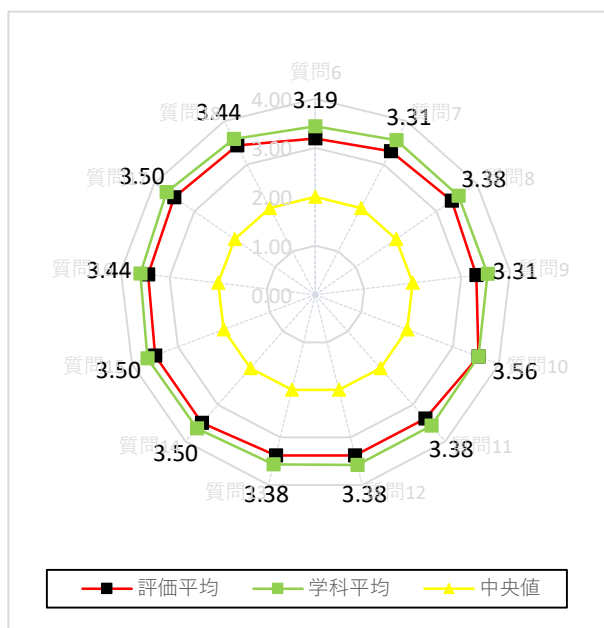
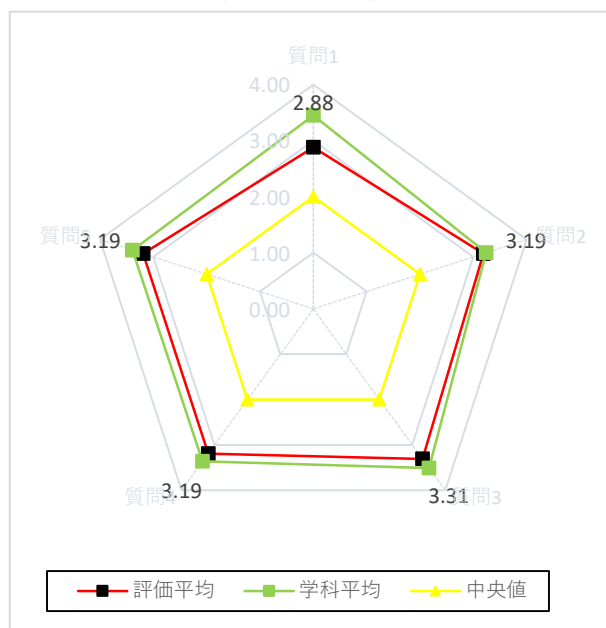
指定規則改正に伴い、本年度より新たに開講された科目である。新しい科目であるため初回講義時にシラバスを基に科目を履修する意義について説明を時間を割いて行った。講義は座学・実技・課題・演習問題・課題を1セットとして行った。実技を取り入れたことで学生は意欲的に取り組んでいたと感じる。質問も実技時間に多く受けることが出来た。ただし、PT・OT合同での講義であるため、教員の手が足りないことがあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

クラス人数によっては実技の内容を変更しながら、全員が能動的に参加できるように工夫することが必要である。今年度学生からもらった意見を基に講義内容は修正を行う予定である。予防リハ・産業リハの分野は国家試験への出題も増えていることからPT・OTへのニーズも含め学生に講義を行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学研究法	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

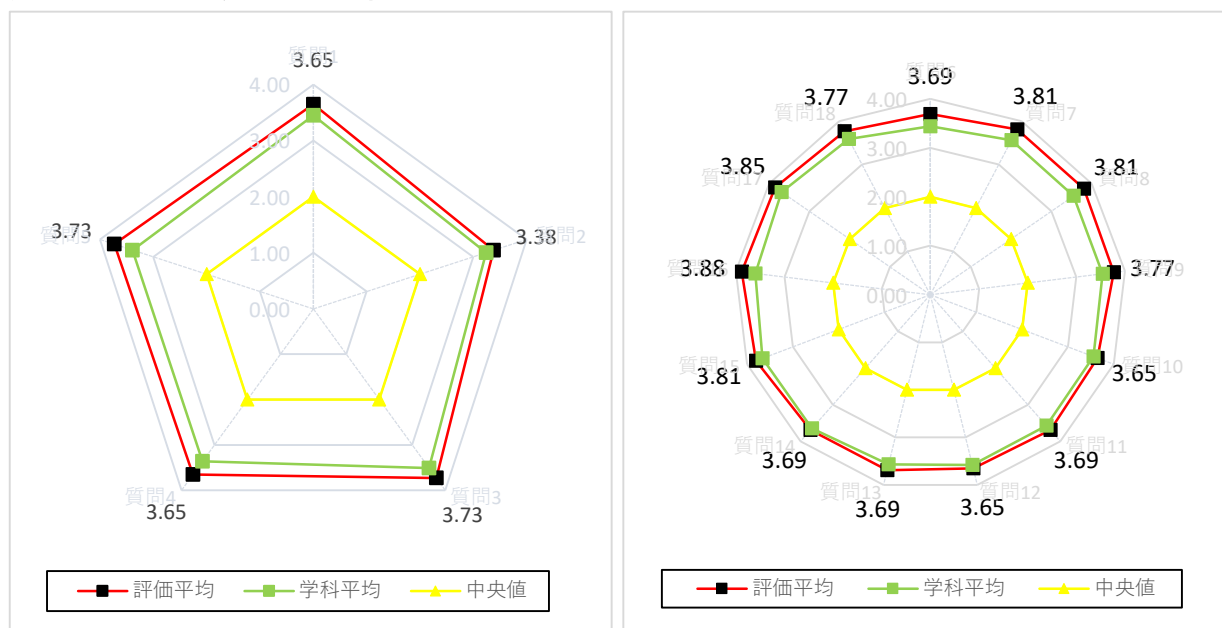
質問6が学科平均より下回る。
シラバスの説明を何度もアナウンスする。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの説明を何度もアナウンスする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学研究法演習	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

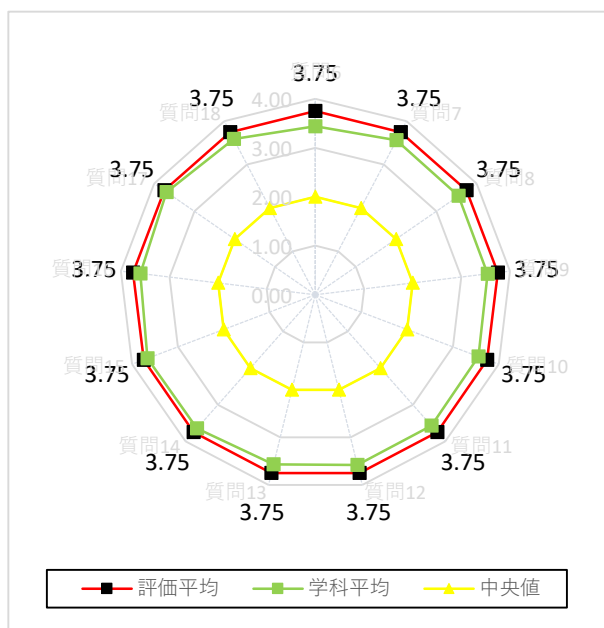
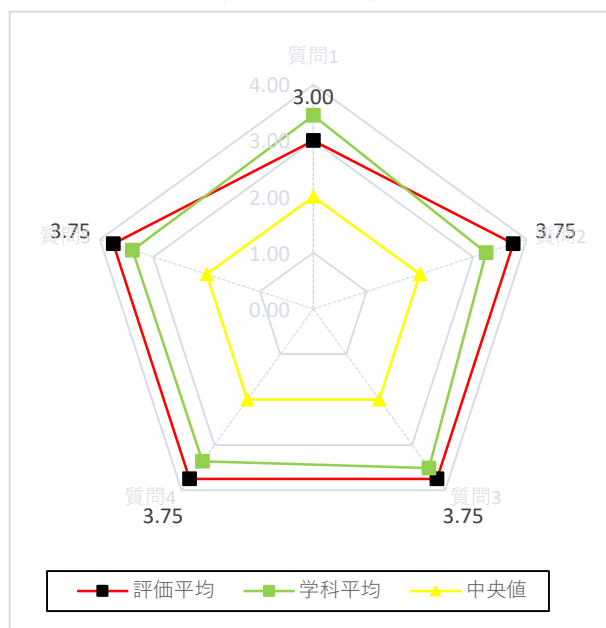
ゼミごとに卒業研究のための抄読会やデータ収集・分析などを行っている。ゼミ教員が少人数に丁寧に対応していることから、毎年学生も意欲的に取り組んでいる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降、早めに卒業研究に取り組んでいく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法評価学概論	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

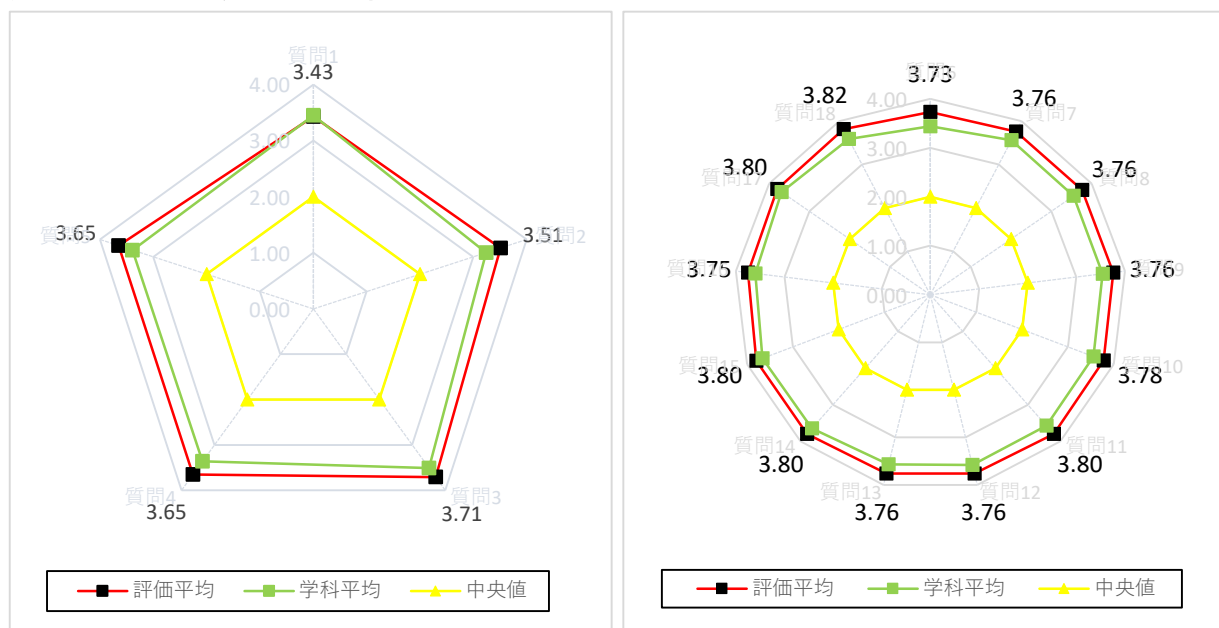
全体的に学科平均と同等の結果であったが、出席に関する回答のみ芳しくなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、可能な限り学生が遅刻や欠席をしないよう、日頃から声掛けに配慮していきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学Ⅱ	51名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

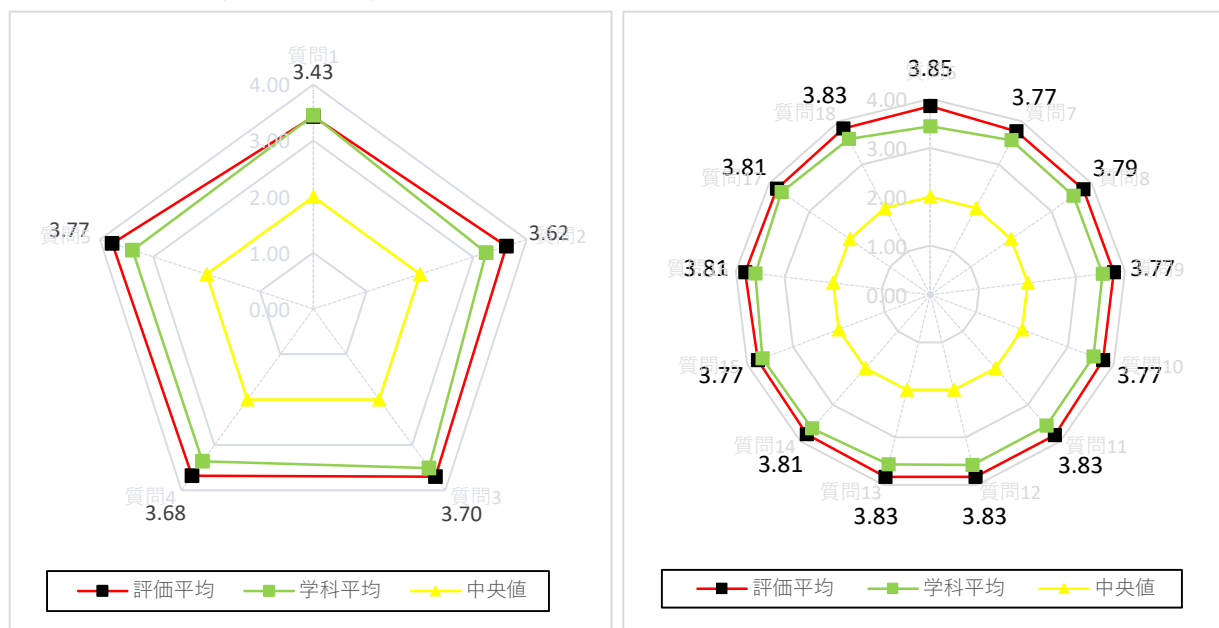
15コマの授業で習得すべき内容の多い授業であるため、学生が興味を持ち集中して授業に取り組めるよう次年度以降も工夫したい。講義後半は実技を交えての講義であった。クラスの数が多いと教員と学生の双方向的なやりとりが難しくなる場面もあったが、質問しやすい環境を心掛けている。また自己学習が欠かせない科目でもあるため、授業で分からないことや実技で不安のある部分などを援助していただける取り組みを行っていくべきである。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価を提出するよう声掛けを確実に行っていく。自己学習が行いやすいような資料を準備することや事後学習についてのフォローにも取り組んでいきたい。特に講義時間だけでは知識・実技の修得の難しい学生がいれば、声掛けを行い、事後学習を一緒に行う取り組みが必要かもしれない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学Ⅲ	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この科目での学生自身の取り組みで評価が高かったのは授業中に居眠り私語等をせずに真剣に取り組んだか？3.70/4.00点であり、評価が低かったのは3.43/4.00点であった。

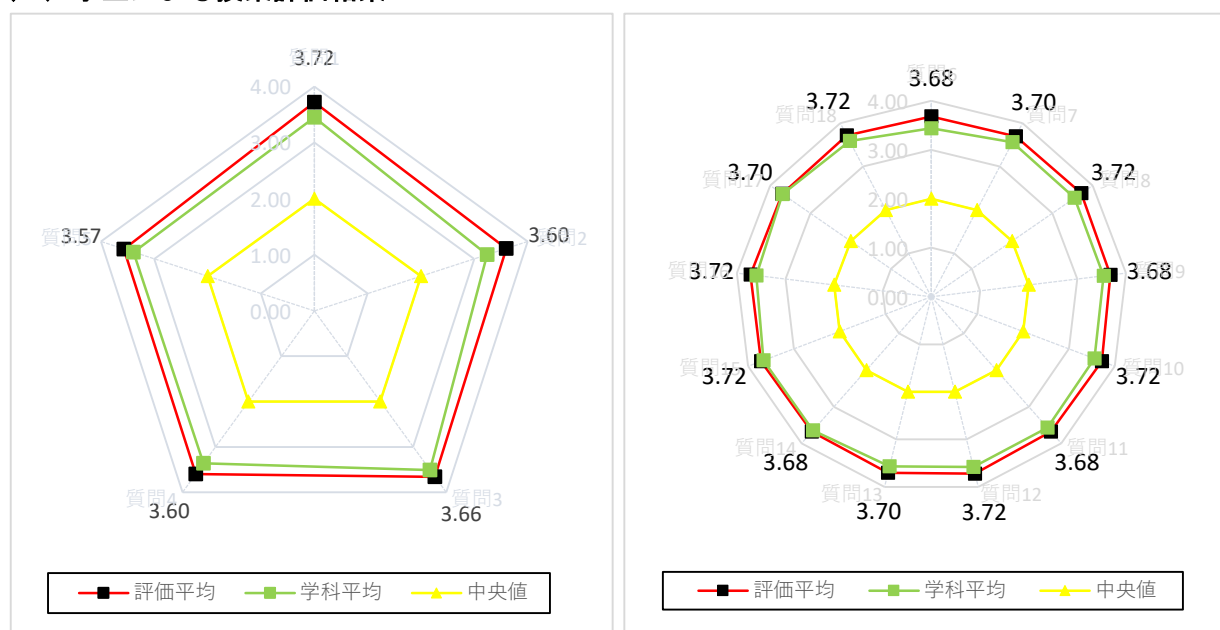
講義方法への評価のなかで評価が高かったのはシラバスについて説明があったか？3.85/4.00点であり、評価が低かったのは到達目標を明確にしていたか？、分かりやすく工夫されていたか？視聴覚機器や板書の使い方は適切か？公平に学生に対応したか？それぞれ3.77/4.00点であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

最も評価が低かったのは、学生自身が何回欠席したか？の評価であった。遅刻、欠席、早退がないように継続教育が必要であると感じる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学実習	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生自身の総合評価は3.57/4.00点、この授業の総合評価は3.72/4.00点であった。

学生自身の取り組みで評価が高かったのは授業を何回欠席しましたか？3.72/4.00点であり、評価が低かったのはシラバスを活用しましたか？授業を理解するために工夫をしましたか？3.60/4.00点であった。

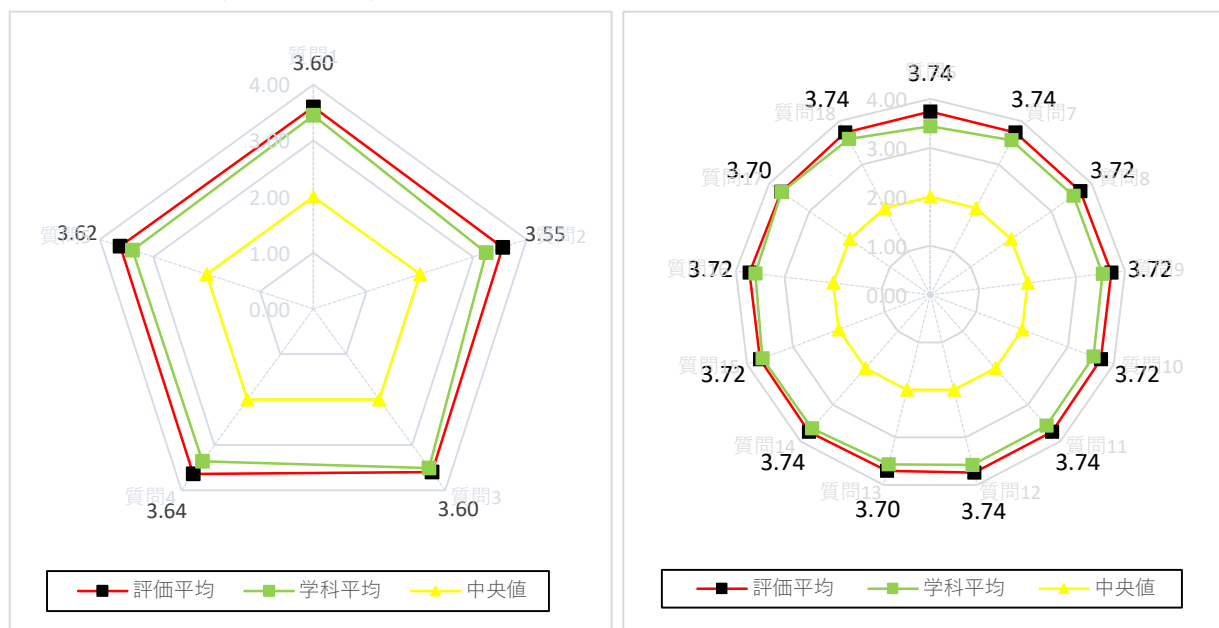
講義について評価が高かったのは興味関心が持てるように工夫されていたか？視聴覚や板書の用い方は適切か？声の大きさ明瞭さ話す速さは適切か？双方向の授業を行ったか？がいずれも3.72/4.00点であった。一方、評価が低かったのは、シラバスについて説明があったか？分かりやすく工夫されていたか？教科書配布資料は役に立ったか？学生の質問に誠実に対応したか？がいずれも3.68/4.00点であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

評価が低かった項目であるシラバスの説明は、毎講義で実施していた。また、テキストに準じて実技を実施することが求められる科目であるため、配布資料が少なく評価が低くなったと思われる。また、教員2名で巡回しながら指導をしたが質問への対応の評価が低かった。質問したくてもできない学生がいたのかもしれない。いずれにしても、学生が評価技術を習得できるように丁寧な講義を心掛けていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		物理療法学	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

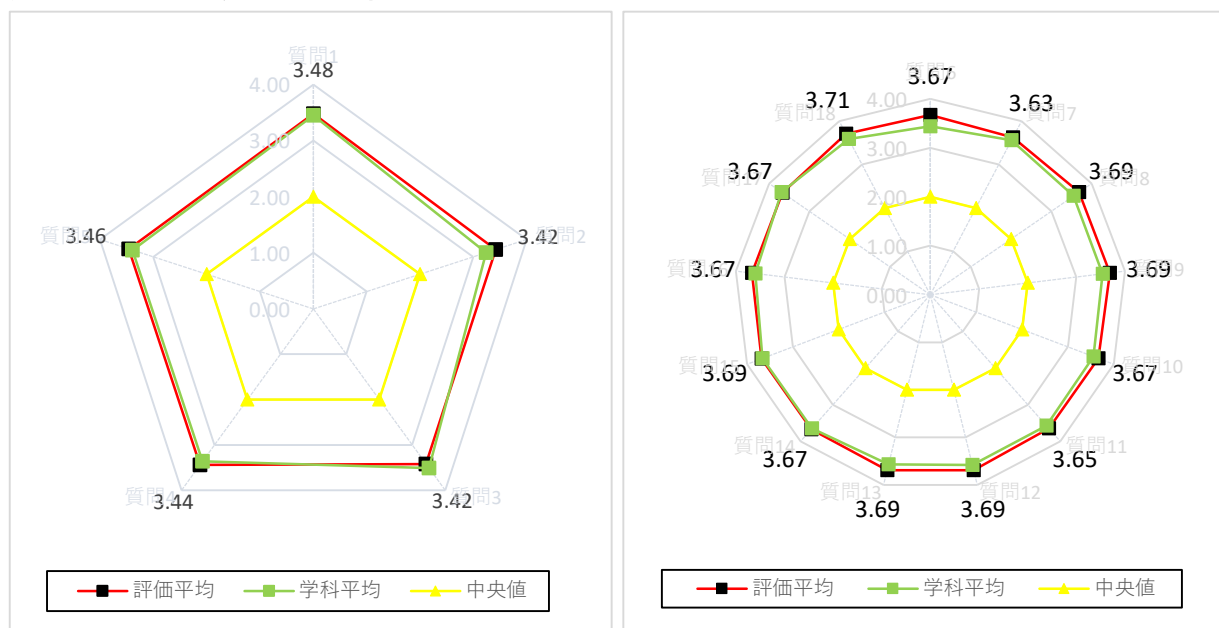
- ・授業評価アンケートの回収率が高い（47人/50名中）
- ・全体的な授業内容への評価は学科平均と同じ程度の結果となっている。
- ・自由記述のアンケートでも前向きなコメントが有る。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・回収率が100%となるように学生への促しを継続していく。
- ・配布資料の工夫や動画コンテンツなどを積極的に利用していくことで授業満足度のさらなる改善を目指す。
- ・国家試験を意識した授業を展開するだけでなく、学外実習につながる臨床的な話も追加し、学生の興味を引き出す工夫を行うことで、授業満足度の改善を目指す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		物理療法学演習	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

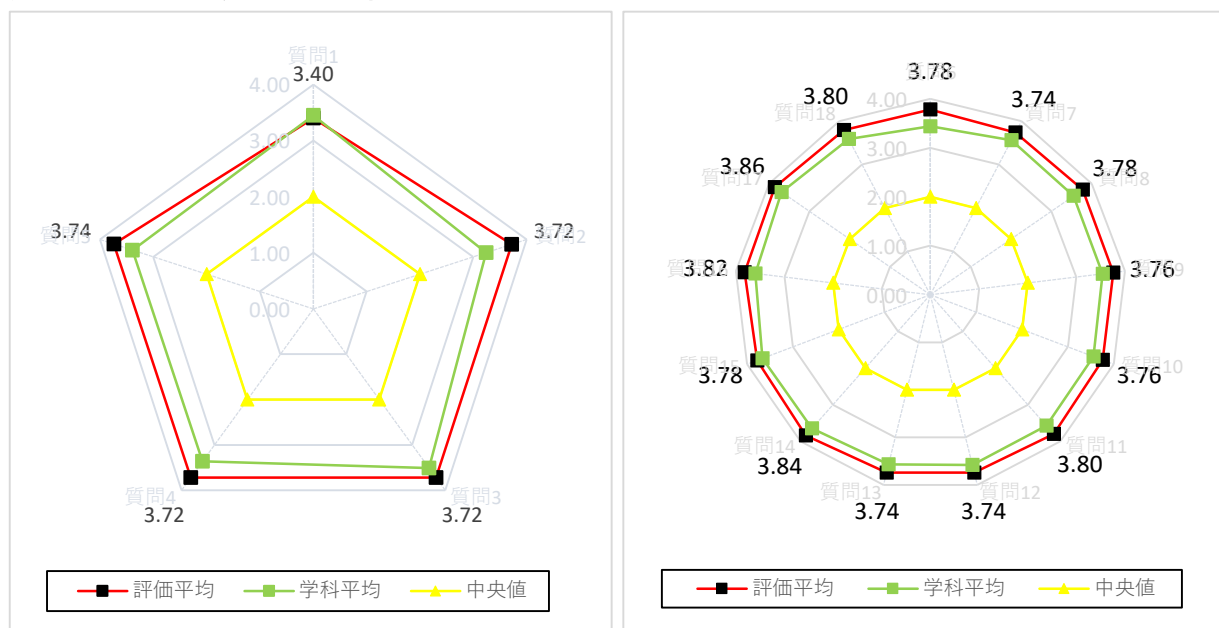
- ・ 授業評価アンケートの回収率は高い（48人/50名中）
- ・ 全体的な授業内容への評価は学科平均と同程度であった。
- ・ 自由記述のアンケートでも前向きなコメントが有る。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 高い回収率を維持するために学生への授業アンケートの記載の促しは継続する。
- ・ 大学にある機材だけではなく、最新の機材などを用いた授業を企業などを誘致しつつ、実施し、学外実習において学生が困らないような工夫を継続することで授業満足度の向上を目指す。
- ・ 教科書だけではなく、動画コンテンツなどを積極的に導入することで、学生へのイメージを掴んでもらい、授業への興味・関心を増すような工夫を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動療法学	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

回答率：100% (50名/50名)。

学習者の総合自己評価 (質問5)：良好 76.0% (38名/50名)，概ね良好 22.0% (11名/50名)，やや不良 2.0% (1名/50名)，不良 0% (0名/50名)。

講義の総合評価 (質問18)：良好 82.0% (41名/50名)，概ね良好 16.0% (8名/50名)，やや不良 2.0% (1名/50名)，不良 0% (0名/50名)。

自由記述：「毎回分かりやすい講義だった (1名)」 「楽しかったです (1名)」 「特になし (1名)」。

(3) 次年度に向けての取り組み

回答率は100%で満足できる結果となった。

学生の自己評価における「満足」「おおむね満足」は98.0%，講義に関する「満足」「おおむね満足」は98.0%で比較的好評価を得ている。

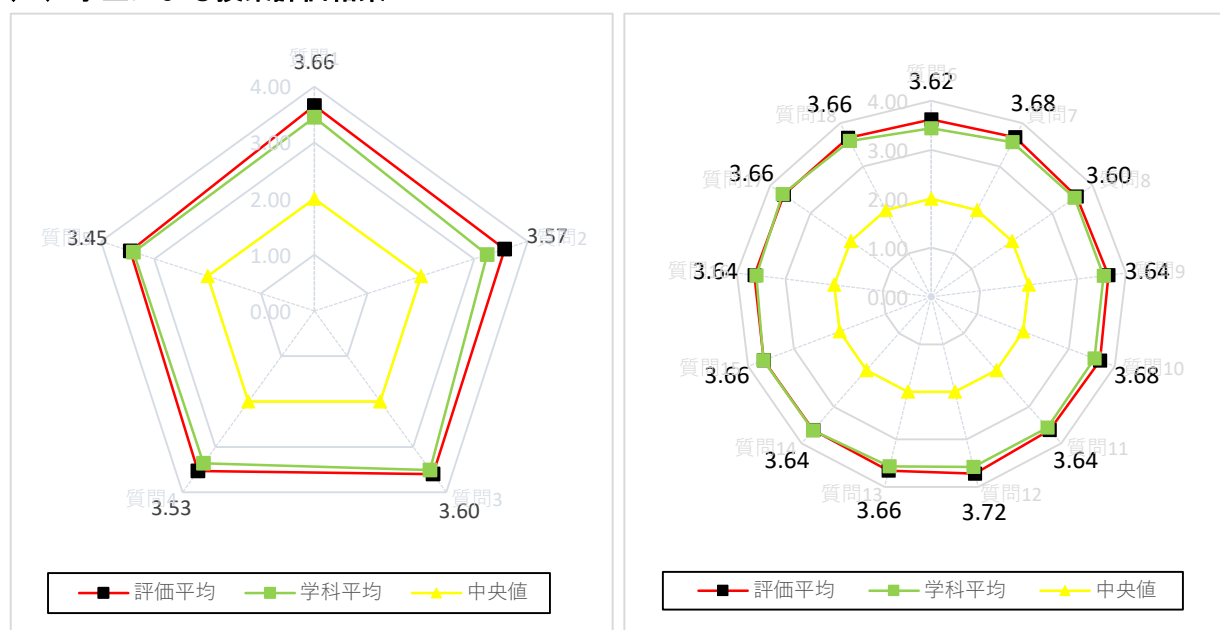
専門職を目指す学生にとって、2年前期に配置された「専門科目」であることから、毎回講義開始時に小テストを行い解説の時間を設けている。

これにより、1年次履修科目 (解剖学、運動学等) の復習および事前学習の時間を確保している。

引き続き、このシステムで学生の学修意欲を刺激していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動療法学実習	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

回答率：94%（47名/50名）。

学習者の総合自己評価（質問5）：良好 57.4%（27名/47名），概ね良好 34.0%（16名/47名），やや不良 4.3%（2名/47名），不良 4.3%（2名/47名）。

講義の総合評価（質問18）：良好 68.1%（32名/47名），概ね良好 29.8%（14名/47名），やや不良 2.1%（1名/47名），不良 0%（0名/47名）。

自由記述：「分かりやすい講義だった（1名）」。

(3) 次年度に向けての取り組み

回答率は94%で満足できる結果となった。

学生の自己評価における「満足」「おおむね満足」は91.4%，講義に関する「満足」「おおむね満足」は97.9%で比較的好評価を得ている。

専門職を目指す学生にとって，2年後期に配置された「専門実習科目」であることから，前期「運動療法学」終了時に後期「運動療法学実習」の講義計画を説明する際に，学生を4?5名のグループに分けて課題を与え事前学修を課している。

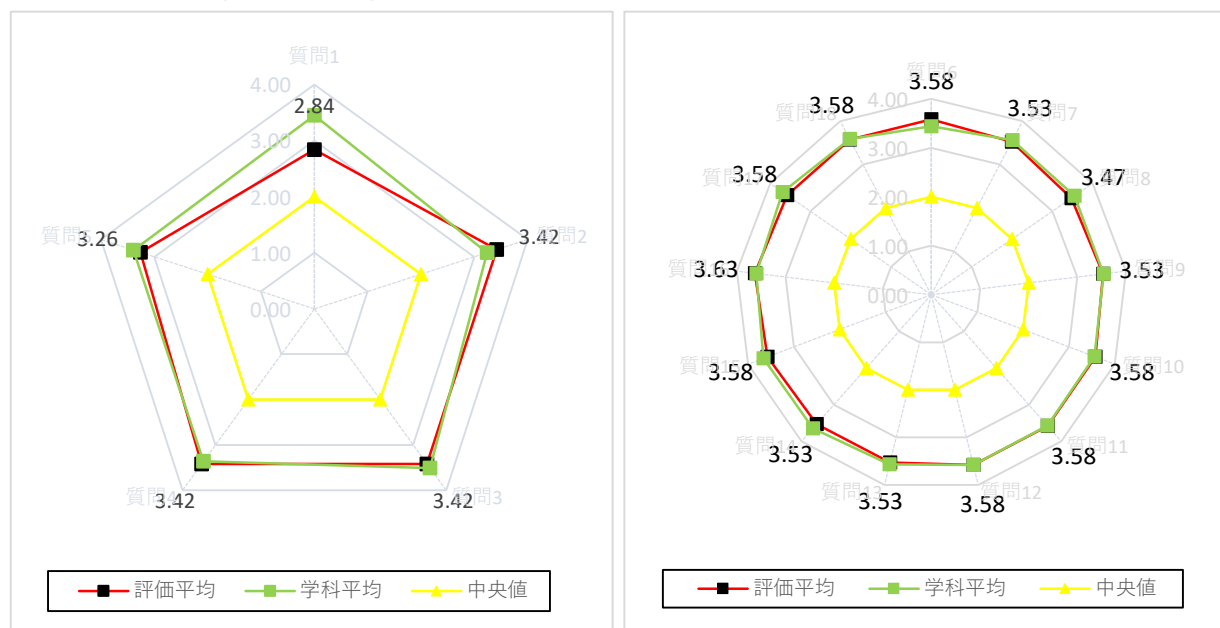
実際の講義は，各課題について，学生が事前学修した知見と実技を含めたプレゼンテーションを行い，講師が適宜補足・修正を行うことで講義を進めている。

講義時間が135分×2コマ（90分×3コマ）となっているため，学生が集中力を維持しながら治療技術を修得することを意識して講義を進めている。

引き続き，このシステムで学生の学修意欲を刺激していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動器障害理学療法学	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

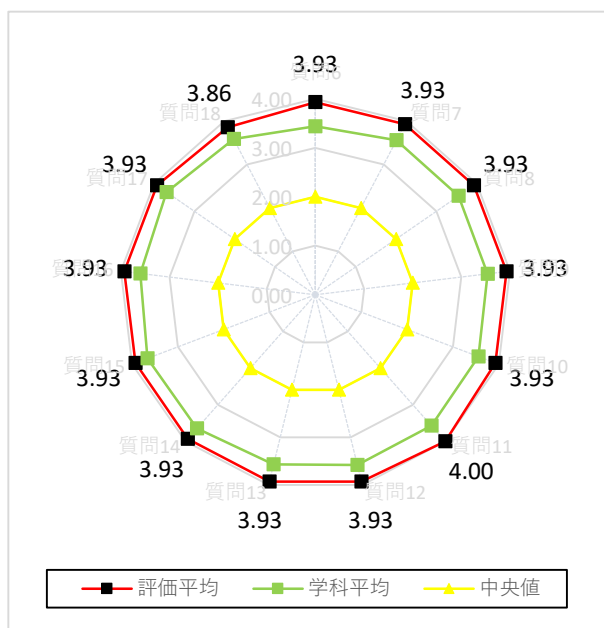
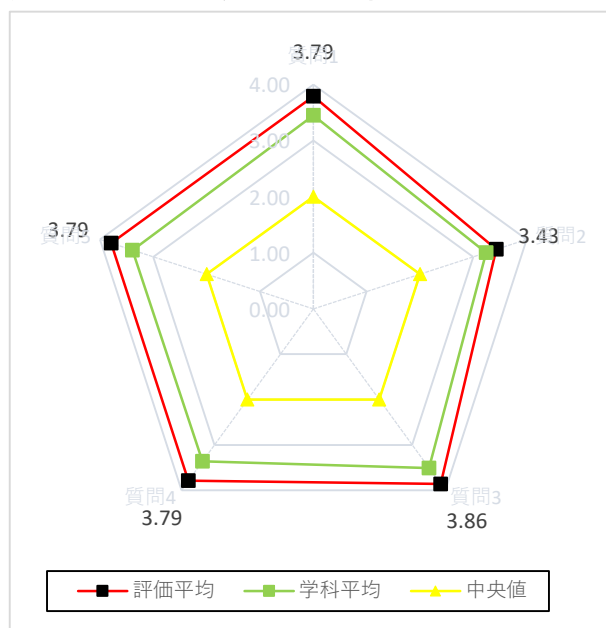
各項目3.5前後と高い評価をいただいた。しかし、欠席者や講義中に居眠りなど参加率がやや悪いため、学生が興味を持って参加できる工夫が必要だと感じた。

(3) 次年度に向けての取り組み

欠席者や講義中の居眠りを減らすために、能動的な参加型の講義スタイルに変更し、より実践的な知識や技術が修得できるように工夫する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動器障害理学療法学実習	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

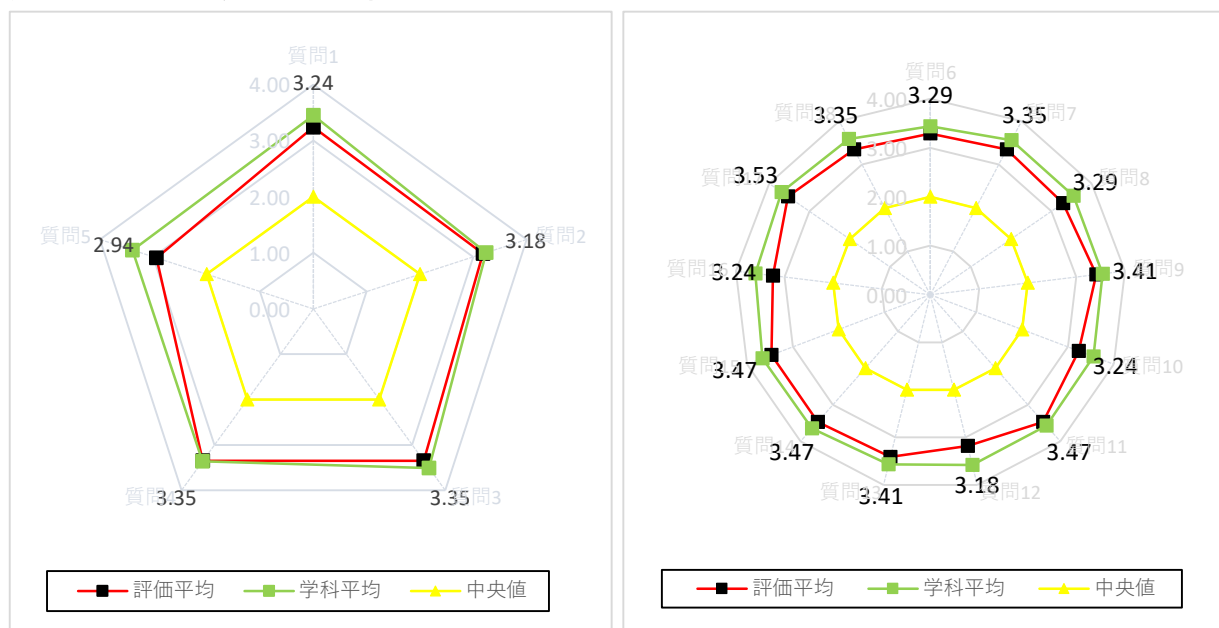
各項目4点と高い評価をいただいた。

(3) 次年度に向けての取り組み

欠席者や講義中の居眠りを減らすために、能動的な参加型の講義スタイルに変更し、より実践的な知識や技術が修得できるように工夫する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経障害理学療法学	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

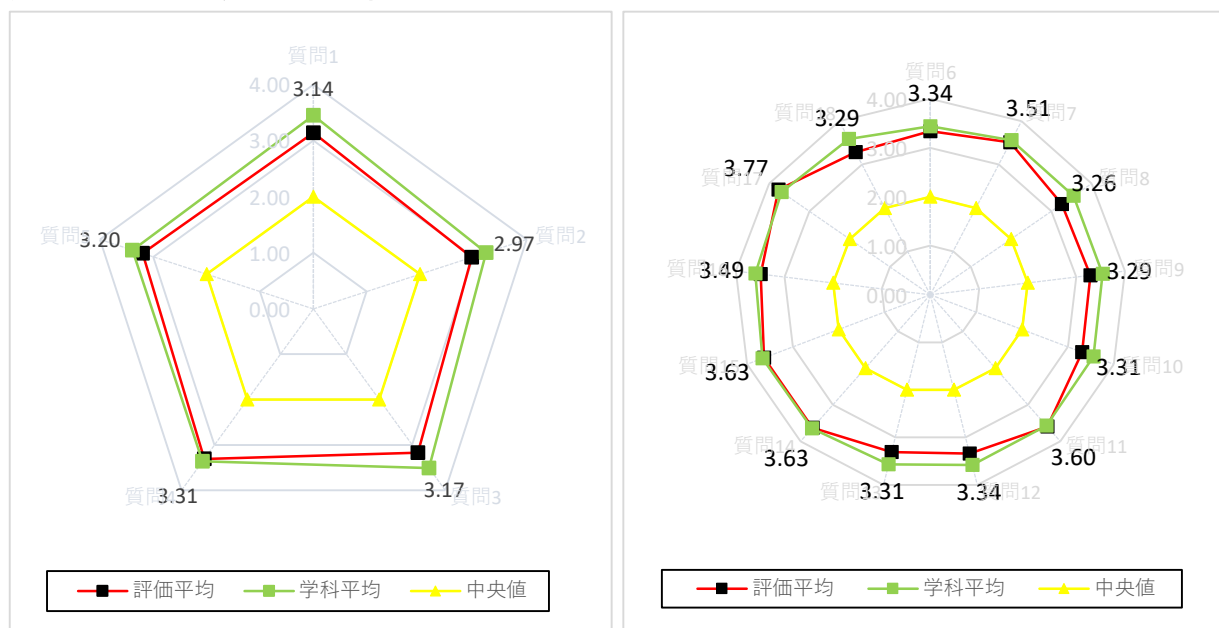
- ・ 総合評価（質問18）は、「満足・やや満足」が94%（16人／17人）であった。
- ・ 学生自身が講義に臨む態度の評価も、講義に関する評価も高かった。
- ・ 概ね良好であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。
- ・ また、実習の際に活用できるような知識を付与できる講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経障害理学療法学演習	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

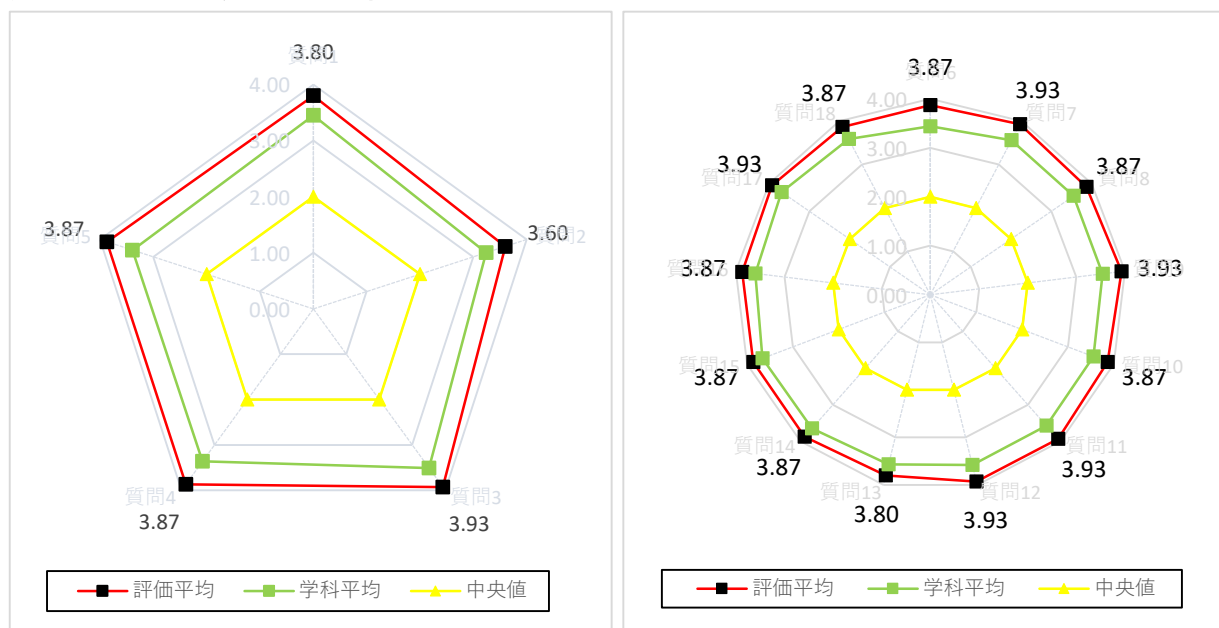
- ・ 学生自身が講義に臨む態度の評価も、講義に関する評価も高かった。
- ・ 概ね良好であったと考える。
- ・ 回答率は85% (35人／41人) であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。
- ・ 実習の際に活用できるような知識を付与できるよう心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経障害理学療法学実習	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

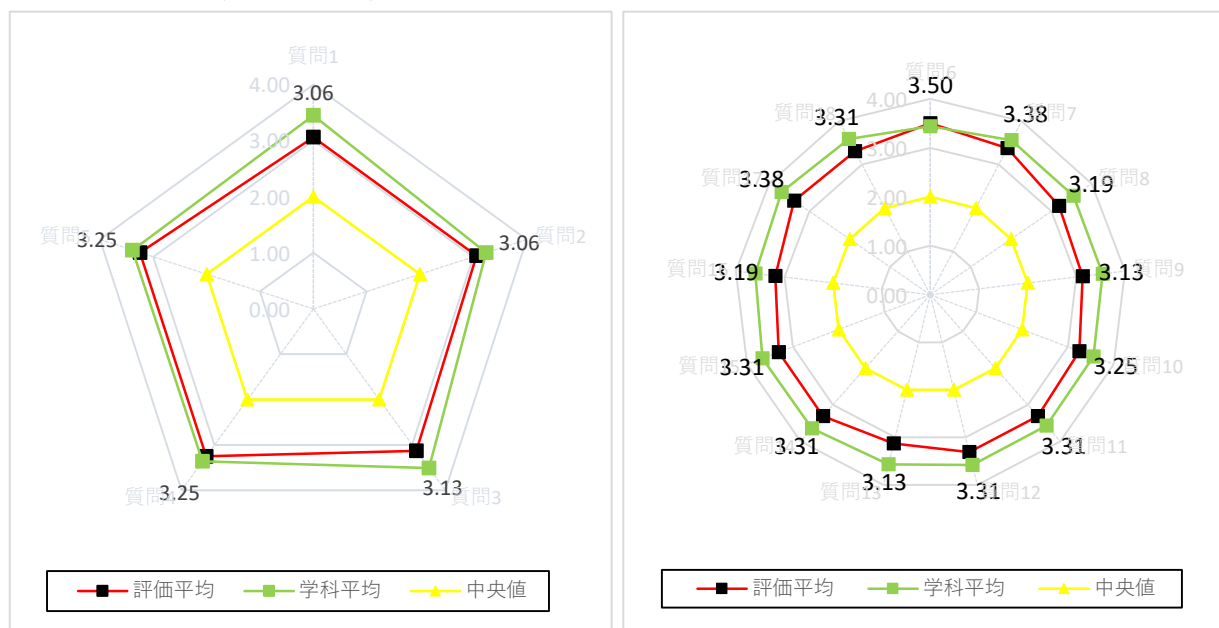
- ・回答者数が少ないため、全体を反映した分析はできない。
- ・総合評価（質問18）は、「満足・やや満足」が100%（15人／15人）であった。
- ・回答者に限って言えば、学生自身が講義に臨む態度の評価も、講義に関する評価も高かった。
- ・概ね良好であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・学外実習後にアンケートを実施するため、アンケートの返答率が低下しているとする。
- ・次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。
- ・また、実習に活用できるような知識が身につくような講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		内部障害理学療法学	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

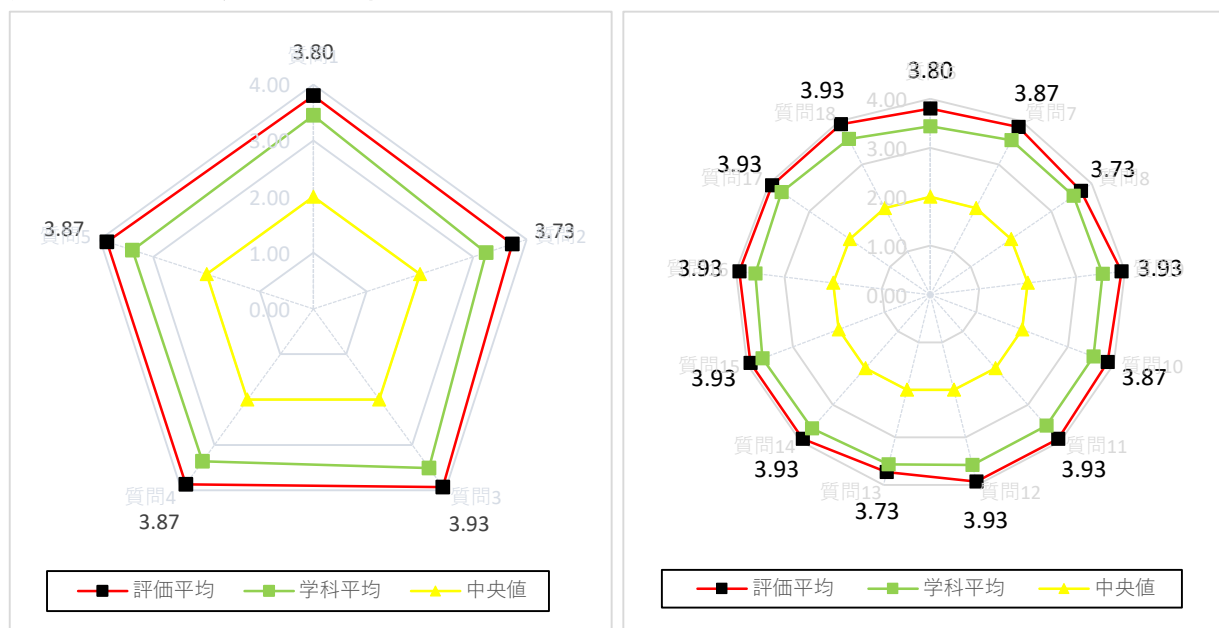
- ・ 総合評価（質問18）は、「満足・やや満足」が88%（14人／16人）であった。
- ・ 学生自身が講義に臨む態度の評価も、講義に関する評価も高かった。
- ・ 概ね良好であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。
- ・ また、実習の際に活用できるような知識を付与できる講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		内部障害理学療法学演習	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

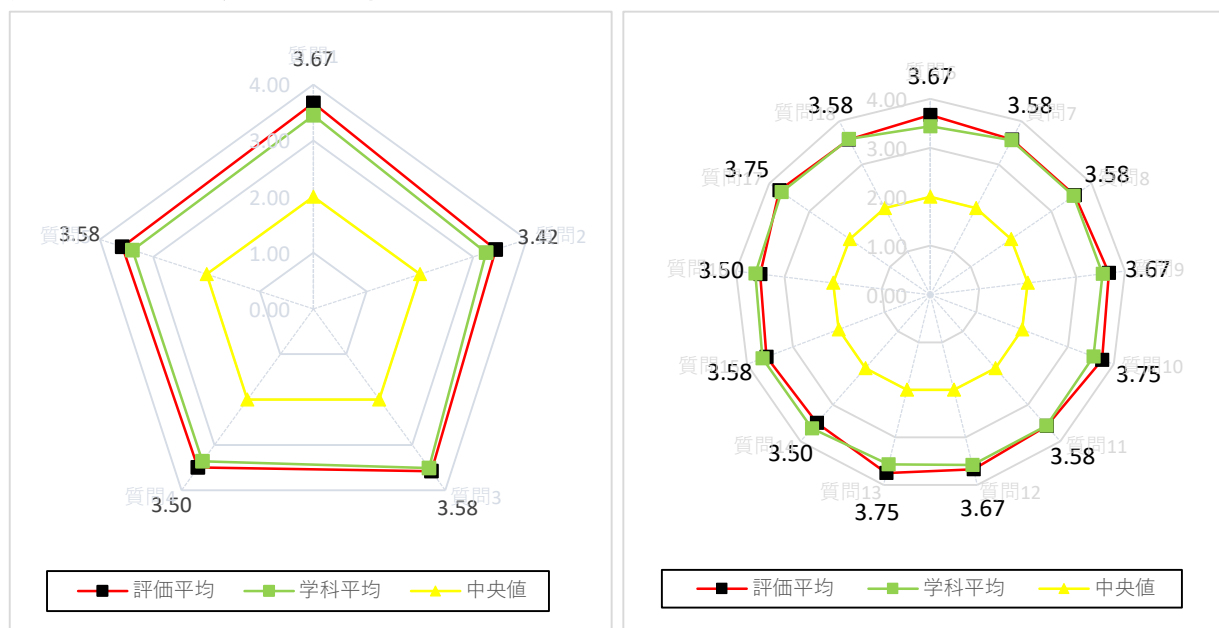
- ・ 回答者数が少ないため（回答率39%），全体を反映した分析はできない。
- ・ 回答者に限って言えば，学生自身が講義に臨む態度の評価も，講義に関する評価も高かった。
- ・ 概ね良好であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 学外実習後にアンケートを実施するため，アンケートの回答率は低いと考える。
- ・ 次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。
- ・ また，実習に活用できるような知識が身につくような講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習 I	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

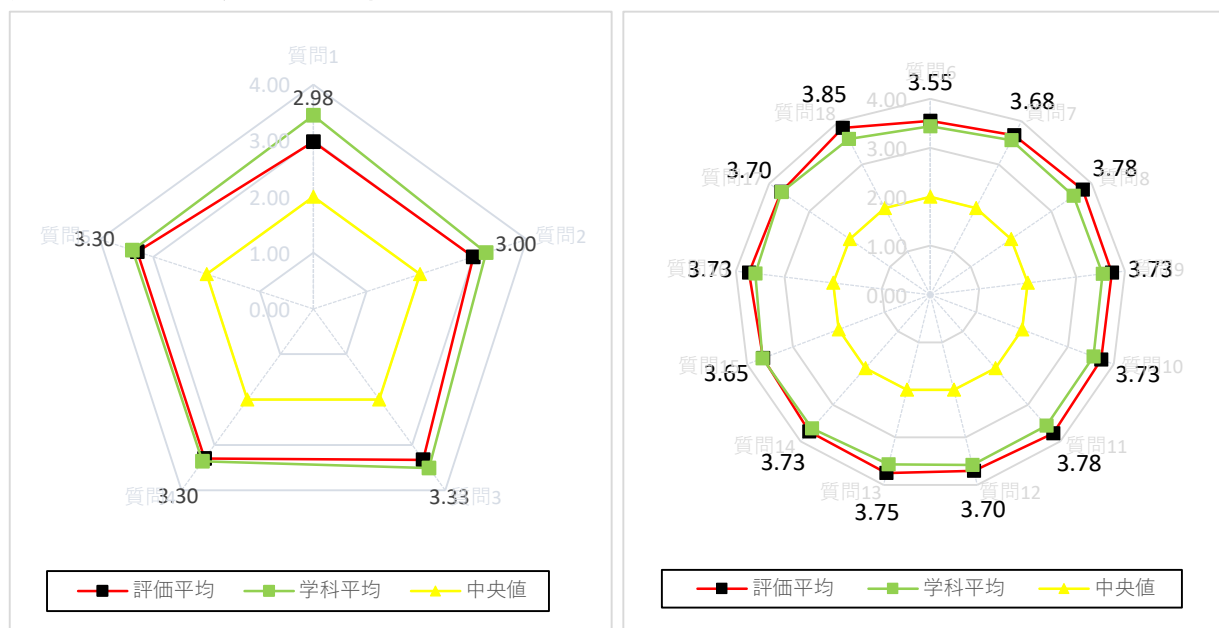
学生自身の取り組みについての総合評価は3.58/4.00点であり、この授業の総合評価は3.58/4.00点であった。
なお、それぞれの質問項目は病院実習の評価に適切でない部分がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生自身の自己評価と授業の総合評価が3.58/4.00点と同じであった。病院実習であることから、自身の努力の程度によって学習効果が得られ、評価が同じになったと思われる。各科目で得た知識をつなげる作業を引き続き取り組んでいきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		発達障害理学療法学	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

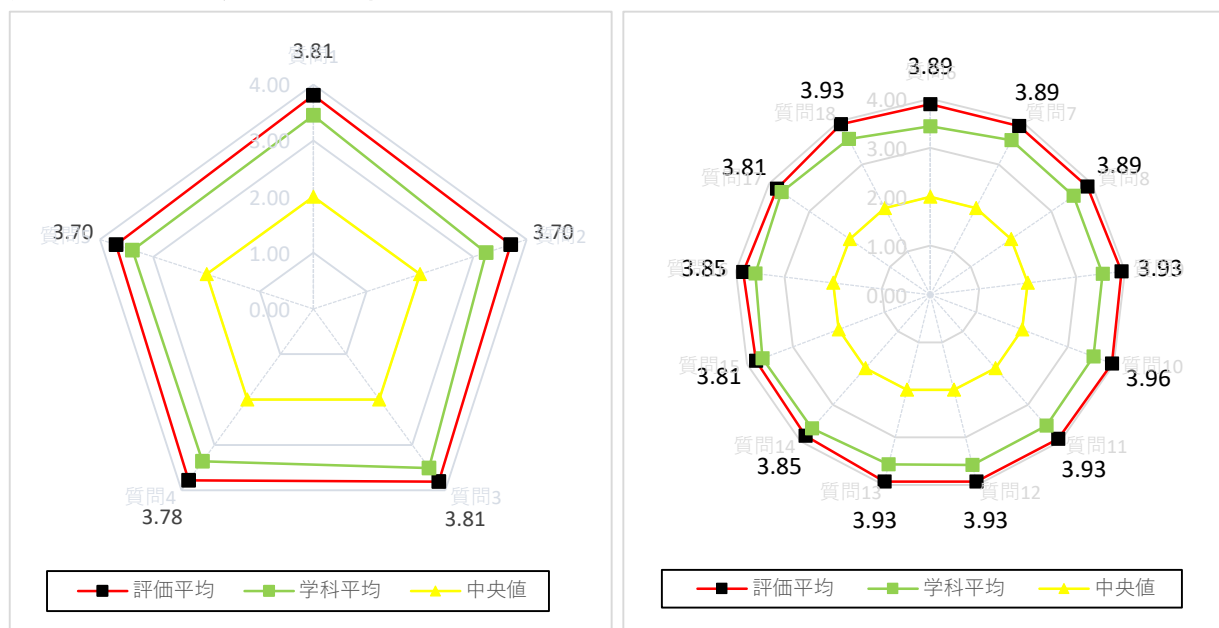
総合自己評価も含め学科平均より少し低い評価となった。
 講義で触れるべき項目が多いため、シラバスを活用しながら授業進行を学生の理解度に合わせ変更したが、
 講義を欠席した学生へ伝わらないこともあった。
 発達障害の患者を診たことがない学生も多く、視聴覚教材を用いた講義は理解の向上を促し、学生感想も良好であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業初回のシラバス説明だけでなく、講義が進行する中でシラバスを変更する際はきちんと印刷したシラバスを修正させながら説明を行う。
 国家試験の出題傾向を分析し、講義の後には国家試験に対応できるような知識が身につくような講義を心がける。
 実技や視聴覚機器を用い、発達障害児・者を見たことがない学生にもイメージできるような講義を心がける。そのための機器や資料を準備する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		発達障害理学療法学演習	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

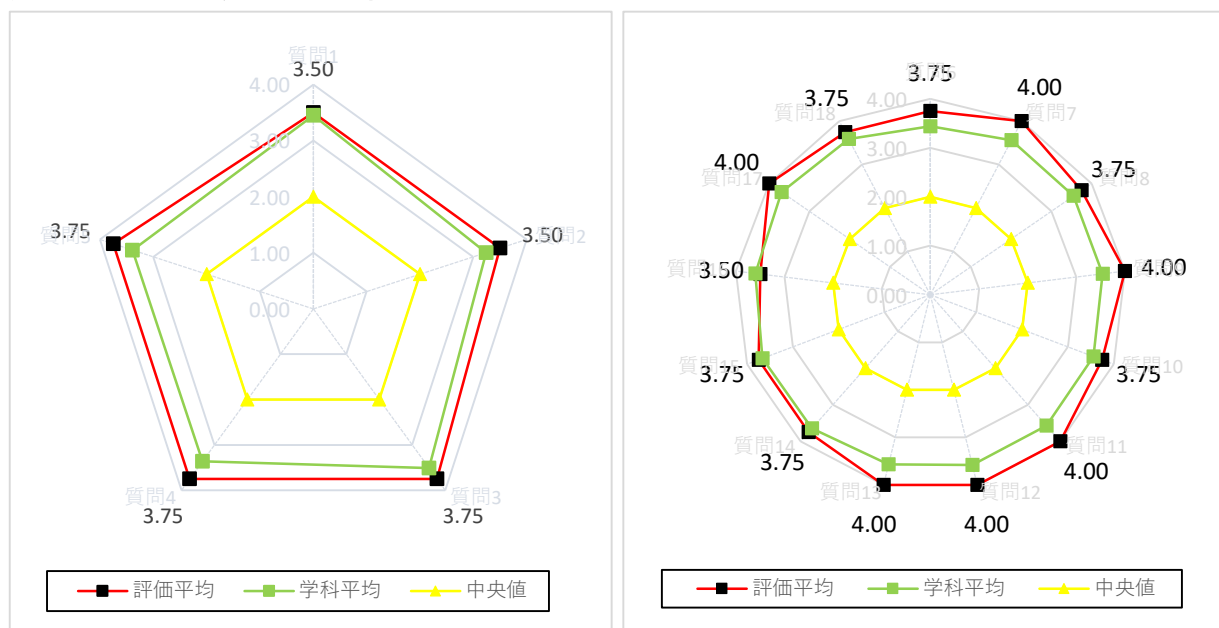
今年度より新たに開講された科目である。低年齢の子どもに触れあったことがない学生も多いため、保育園のご協力のもと、ほとんどの学生が保育園児の体力チェックに同行することが出来た。新型コロナウイルスの影響で参加出来なかった学生には後日フォローアップを行った。また視聴覚教材を持ちいて、各疾患の患者像を確認しプログラム立案までを経験した。何例が進めるうちに学生は意欲的に取り組めるようになり質問も増えた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降も学外での体験を含め講義を組み立てる。視聴覚教材の充実をはかり、学生の学修効果を高める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		高次脳機能障害作業療法 学	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

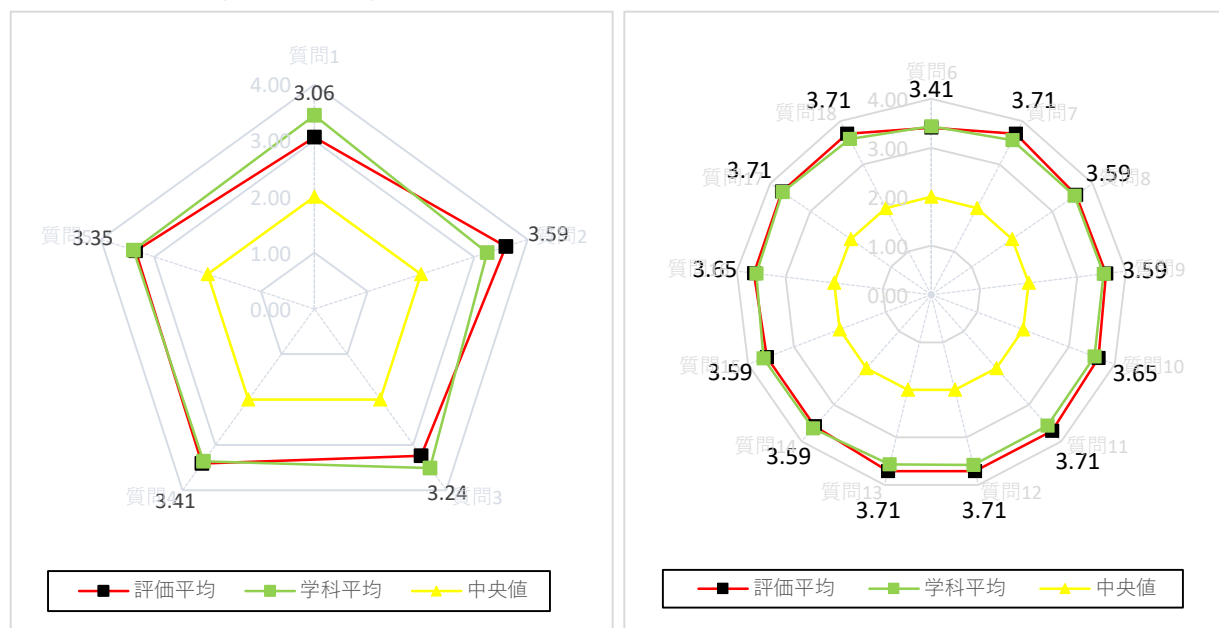
全体的に学科平均と同等の結果であったが、双方向的なやり取りに関する回答のみ芳しくなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度の結果を踏まえて、次年度はさらに学生との双方向のやり取りが可能となるよう、授業内容を工夫したいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		日常生活活動学	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

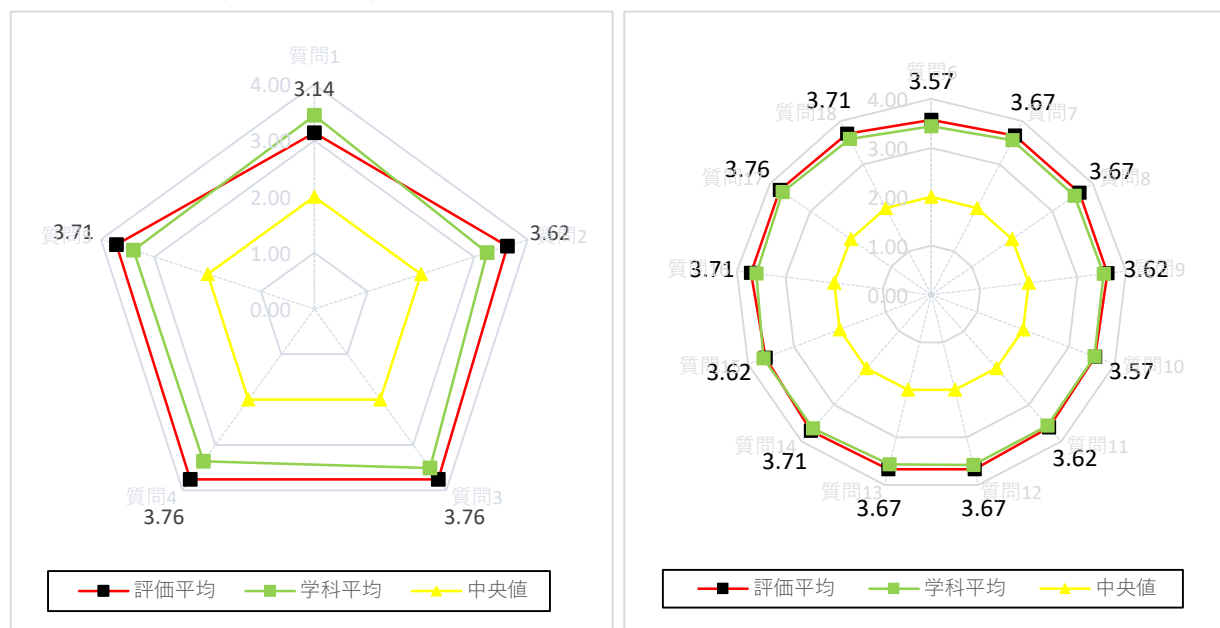
- ・ 授業評価アンケートの回収率が低い（17人/40名中）
- ・ すべての評価において1（あまりそう思わない、もしくは不十分）であると記載されている。
- ・ 自由記述のアンケートでも前向きなコメントが有る。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ アンケートの回収率が低いため、アンケート提出を授業中などで促しを行っていく。
- ・ 授業に対する前向きなコメントなどはあったが、不十分だと感じている学生もいるため、次年度は授業の中での双方向性を意識した授業やシラバスの説明などを丁寧を実施する。
- ・ 欠席者も多くいるため、欠席者に対するフォローアップについても資料を準備するだけでなく質問に対応するなどの方法を模索する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		卒業研究	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

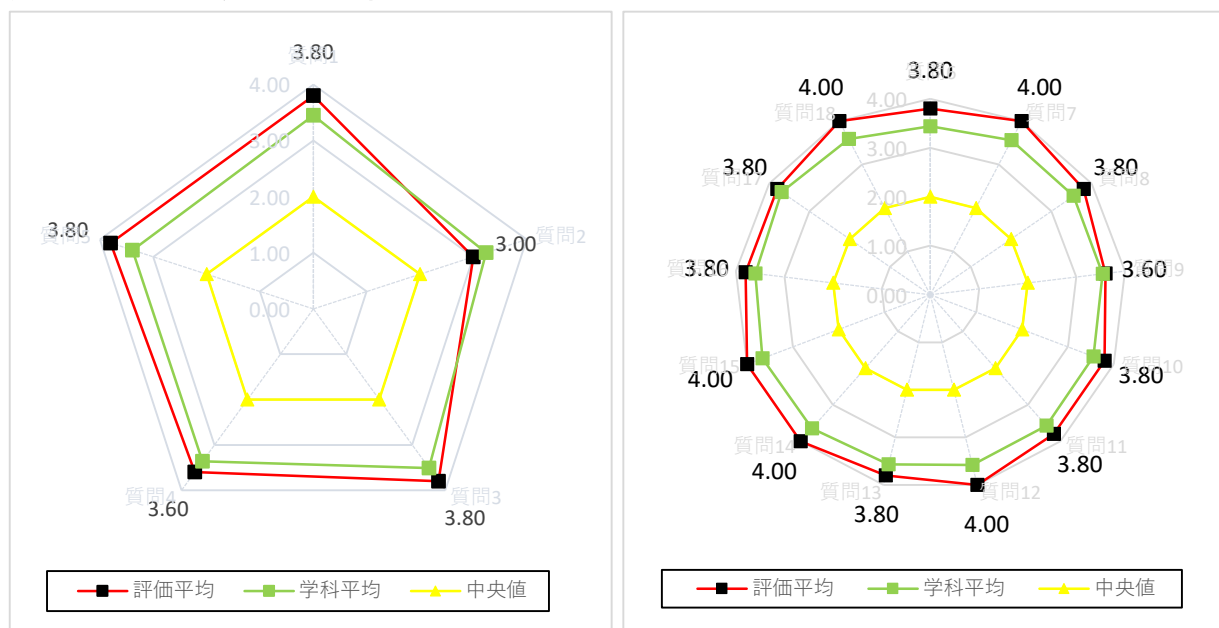
全員が抄録・本論の提出を行った。また対面での卒業研究発表会ではスライドを作成し発表を行うことが出来た。ゼミごとに丁寧に指導しており、学生も意欲的に取り組むことが出来ている。

(3) 次年度に向けての取り組み

例年通りのスケジュールで実施していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		高次脳機能障害作業療法学演習	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

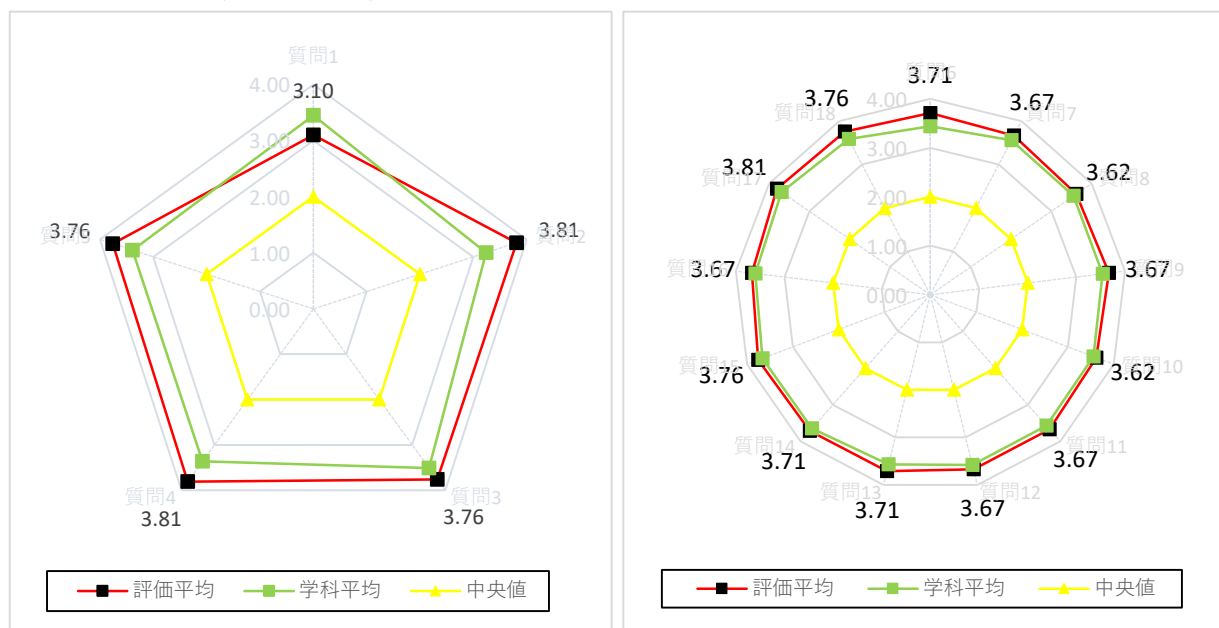
全体的に学科平均と同等の結果であったが、シラバス（授業計画）を活用したかという質問のみ芳しくなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

オムニバスの講義であり、かつグループ演習を行っているため、シラバスに記載しきれない内容で講義を実施している。
よって、シラバスの形式で説明できない内容に関しては別紙で説明するなど、工夫したいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学特論 I	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

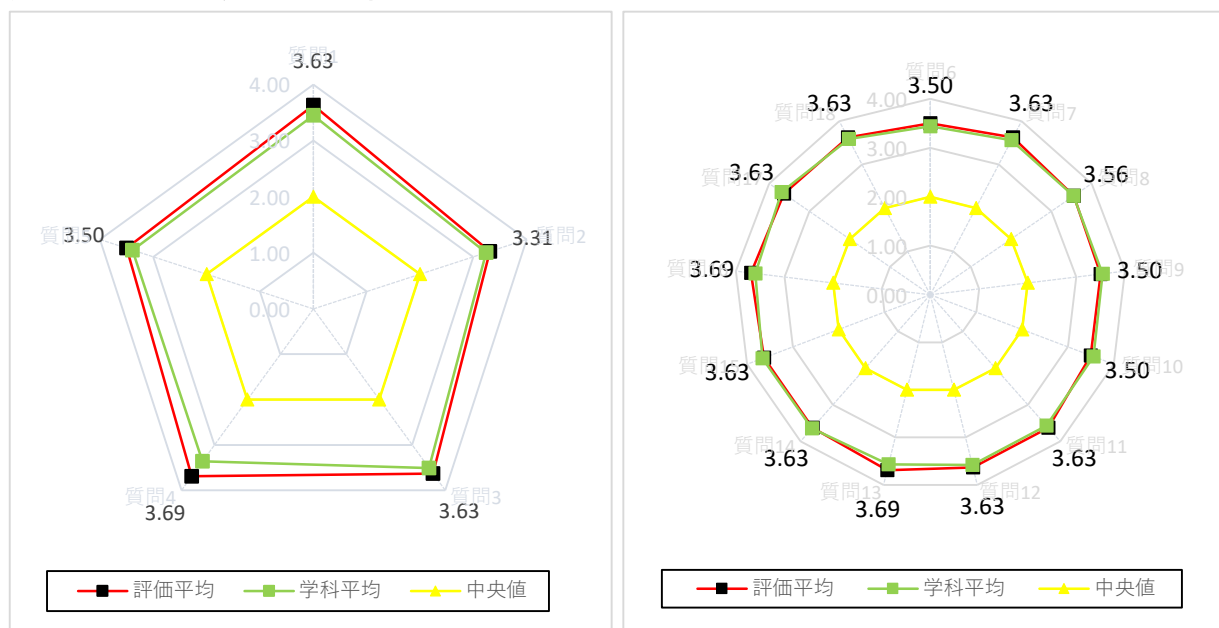
- ・ 回答率は21/22名と高い回収率となっていた。
- ・ 質問18においては回答すべてが「良い」「やや良い」となっていたため、満足度の高い講義が展開できていると考える。
- ・ 質問1の欠席においては複数回、欠席の学生がいるが、就職活動などにより仕方がない側面もあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 次年度も高い回収率を継続できるように授業評価アンケート実施の促しを継続する。
- ・ 就職試験・活動における欠席の学生に対するフォローアップとして、配布資料の準備や補講などを行うことを検討する。
- ・ 質問18にある授業の満足度の向上のために国家試験の対策や理学療法領域における最新知見を含む講義を展開できるように準備を進める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		老年期障害理学療法学	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

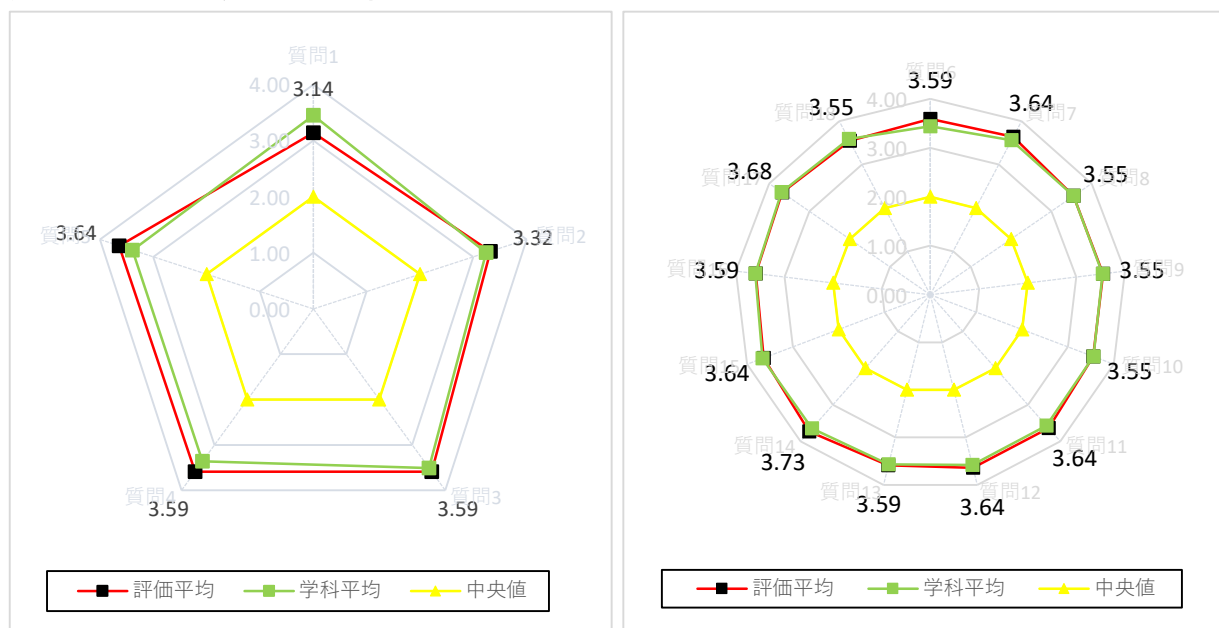
例年質問6のシラバスについての説明が平均値より下回ったが今年度は若干下回った。

(3) 次年度に向けての取り組み

履修者数41名中16名しかアンケート実施をしていない(39%)。次年度は授業の最後に実施するようアナウンスする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学特論Ⅱ	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

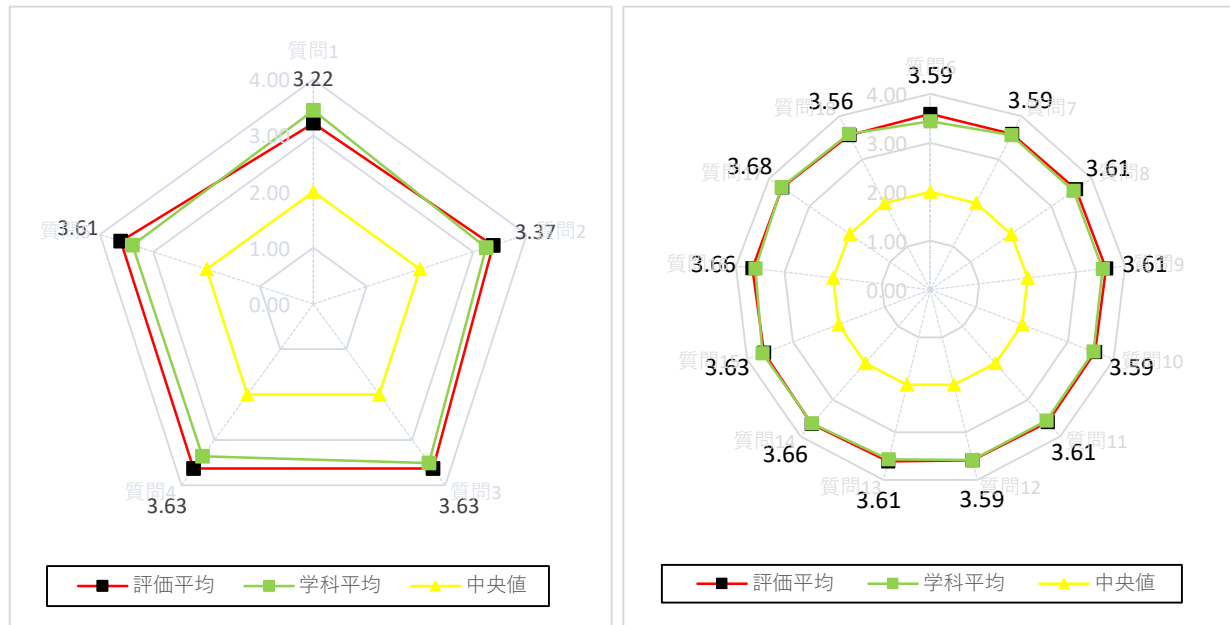
- ・総合評価（質問18）は、「満足・やや満足」が90%（20人／22）であった。
- ・自由記述より、アクティブラーニングについて学生からのコメントがあった。次年度に向けた改善点と考える。
- ・回答率は100%（22人／22人）であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・上述の通り、学生からアクティブラーニングについてのコメントがあった。
→取り組みの映像を見せることでスピード感を示し、学生がイメージしやすいように工夫するなどの改善を行う。
- ・回答率は前年度より改善された（前年度9%→今年度100%）。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		安全管理運営学	43名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

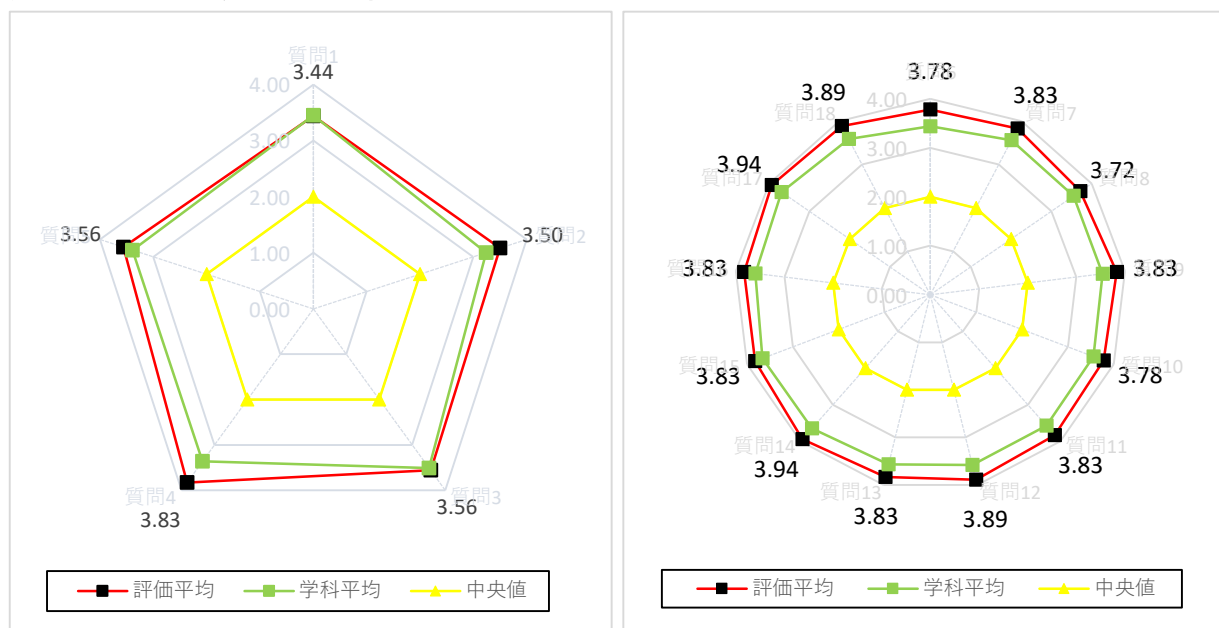
履修者43名中、41名の回答を得ることができた。
質問項目に対する回答は、平均的な点数であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度、科目閉講となる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		日常生活活動学実習	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

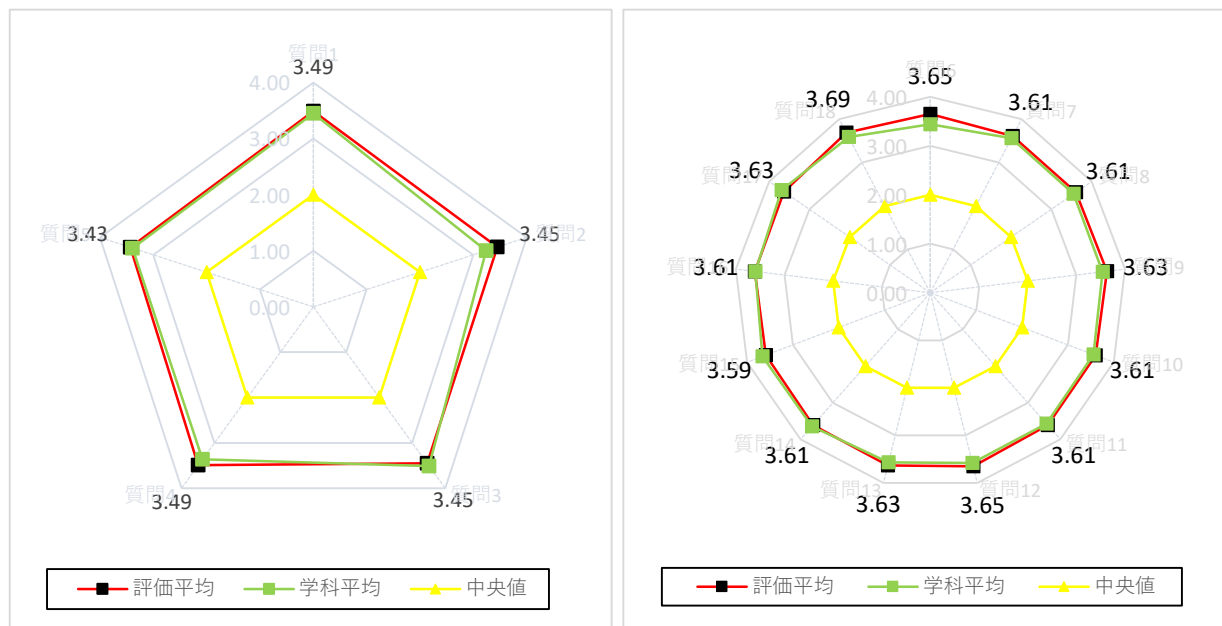
- ・授業評価アンケートの回収率が低い（18人/39名中）
- ・全体的な授業内容への評価は学科平均よりも良い値となっている。
- ・自由記述のアンケートでも前向きなコメントが有る。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・3年生後期開講科目であり病院実習との兼ね合いで授業アンケートの回答の促しが不十分であったため、アンケートへの回答の促しを行う。
- ・授業の満足度は概ね良い結果を示していると考えられるため、次年度以降も継続できるように授業内容のブラッシュアップに務める。
- ・欠席者へのフォローアップとして、配布資料の準備やオンデマンドを含めて、補習課題の準備など、対応策を検討する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		義肢装具学	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

回答率：98%（49名/50名）。

学習者の総合自己評価（質問5）：良好 53.1%（26名/49名），概ね良好 38.8%（19名/49名），やや不良 6.1%（3名/49名），不良 2.0%（1名/49名）。

講義の総合評価（質問18）：良好 71.4%（35名/49名），概ね良好 26.5%（13名/49名），やや不良 2.0%（1名/49名），不良 0%（0名/49名）。

自由記述：「分かりやすい講義だった（1名）」。

(3) 次年度に向けての取り組み

回答率は98%で満足できる結果となった。

学生の自己評価における「満足」「おおむね満足」は91.9%，講義に関する「満足」「おおむね満足」は97.9%で比較的好評価を得ている。

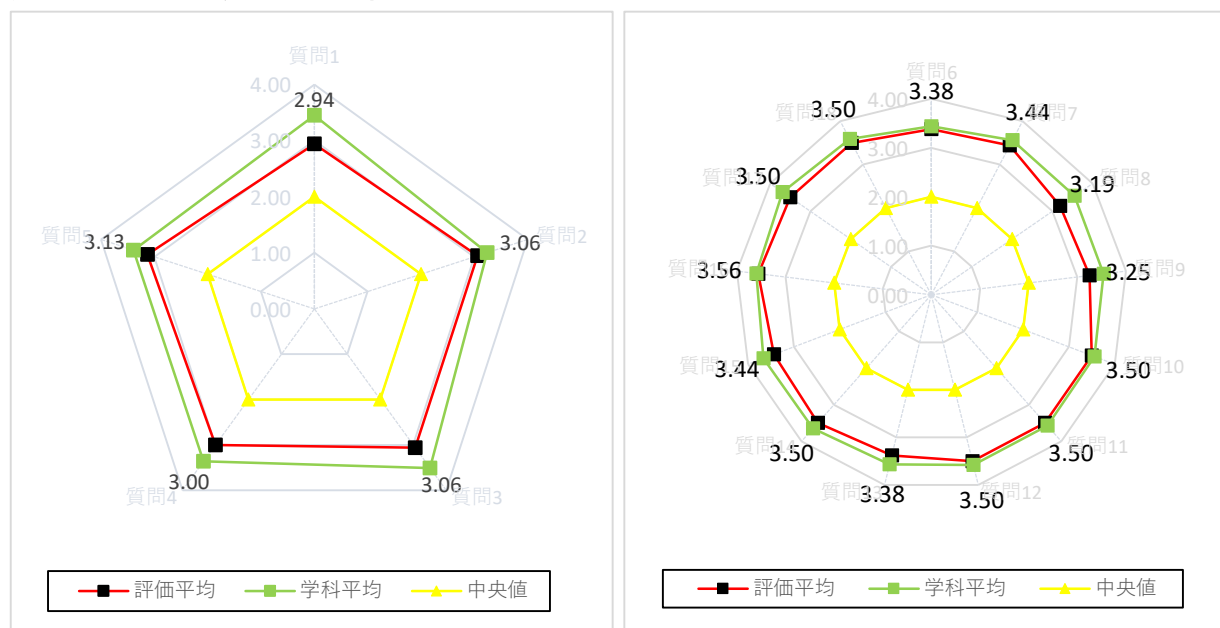
専門職を目指す学生にとって，2年後期に配置された「専門科目」であることから，1年次の履修科目（解剖学，運動学，評価学等）の復習を含めて「義肢装具」の使用例を実際の患者の画像および動画を紹介しながら講義を進めている。

また，国家試験受験に向けた動機づけとして，各単元終了時に国家試験問題を提示して解説している。

引き続き，このシステムで学生の学修意欲を刺激していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		地域理学療法学	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

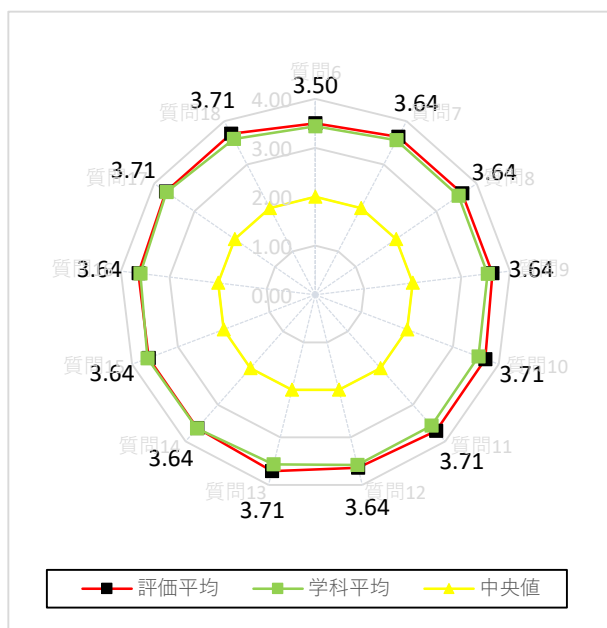
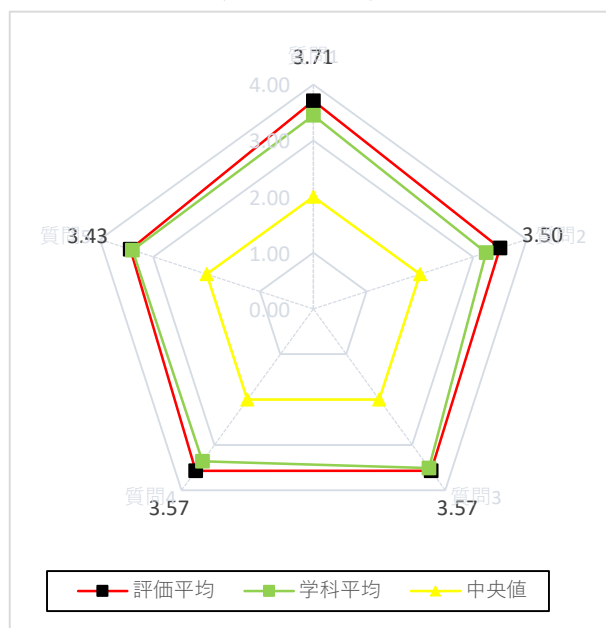
質問1から18がほぼ学科平均と同じであった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、将来PTとして患者ニーズに答えられるように在宅サポートセンターでの見学を設ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		地域理学療法学演習	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

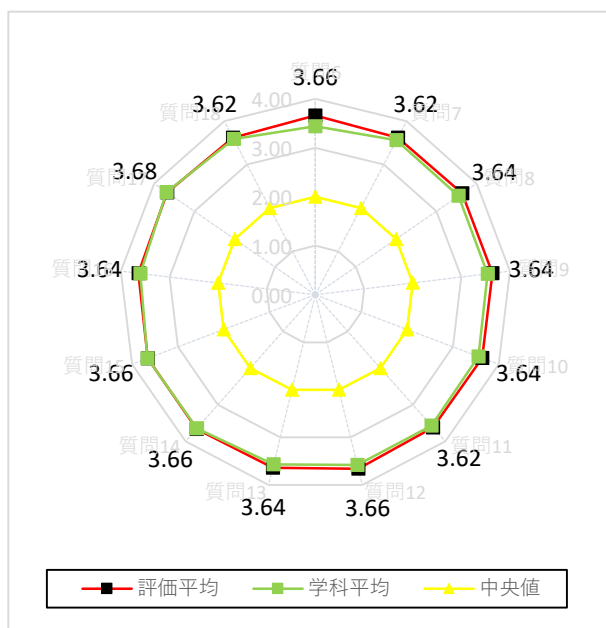
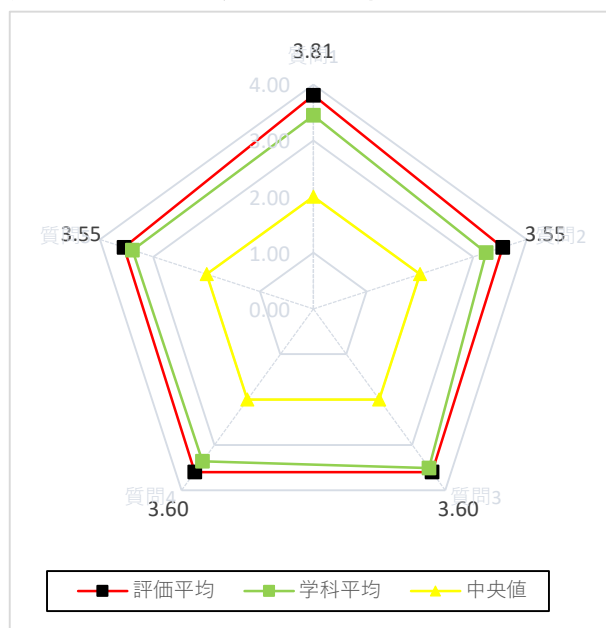
質問1から18がほぼ学科平均と同じであった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、将来PTとして患者ニーズに答えられるように在宅サポートセンターでの見学を設ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅱ	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

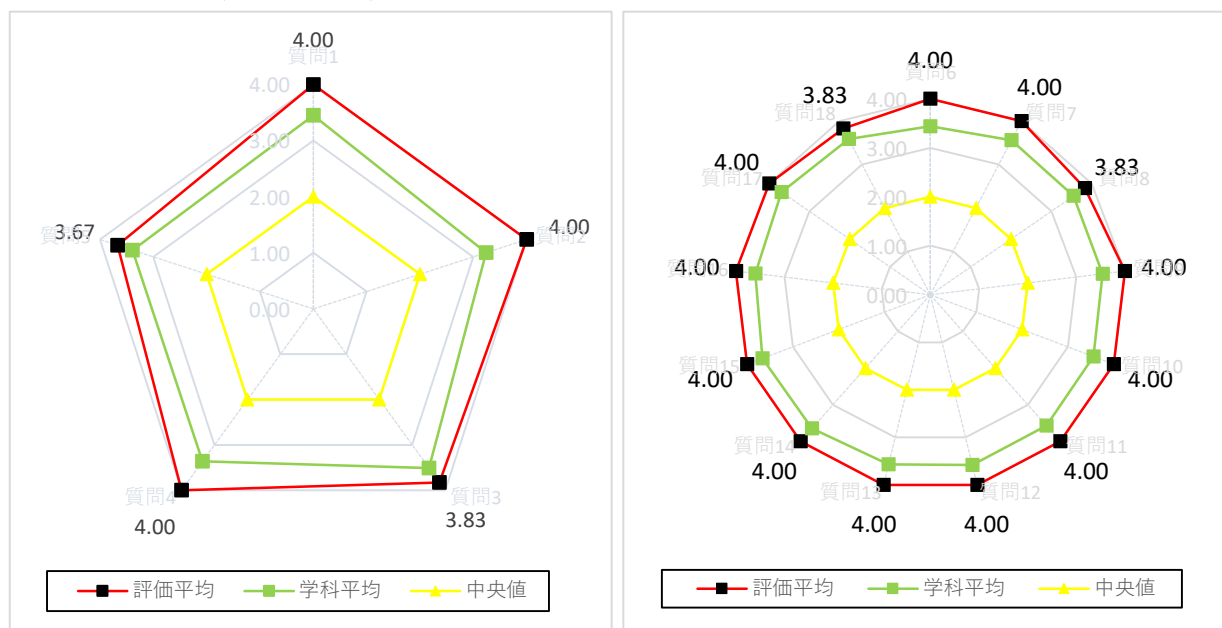
50名中47名の回答を得られた。
平均的な点数であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

コロナ禍で施設の感染状況や本人の感染等もあり、学内実習や実習期間を変更して対応した。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅱ	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

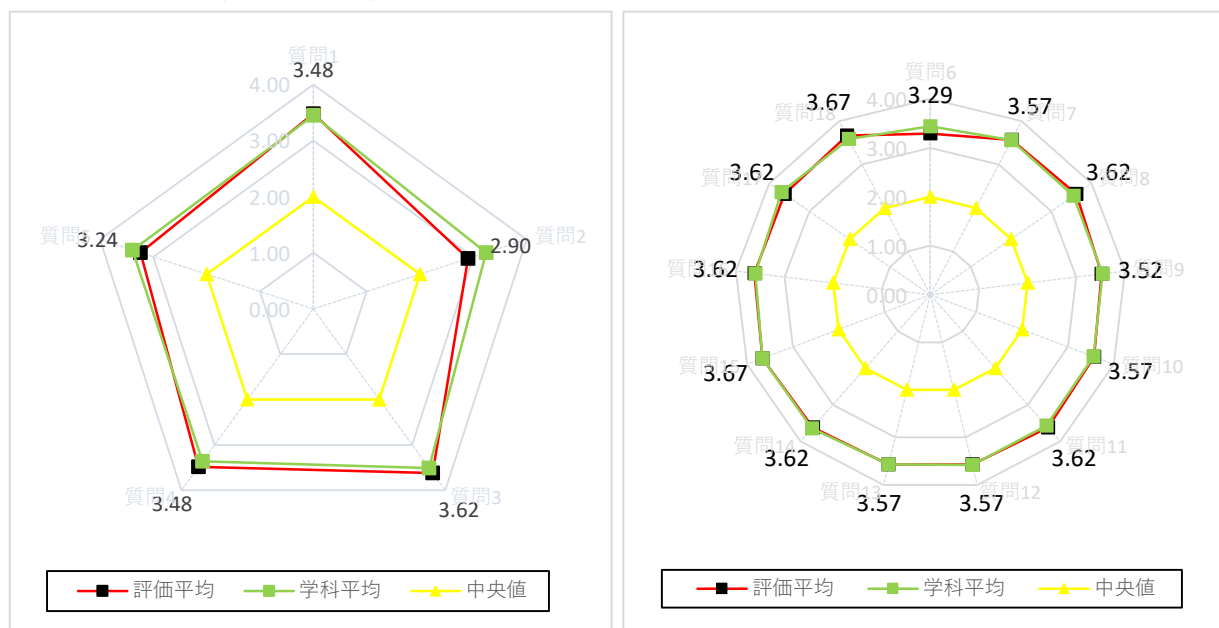
全ての項目について学科平均を上回っていた。
臨床実習に対して、全教員で丁寧な学生指導に取り組んだ結果だと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降も、丁寧な学生指導を継続していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅳ-1	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

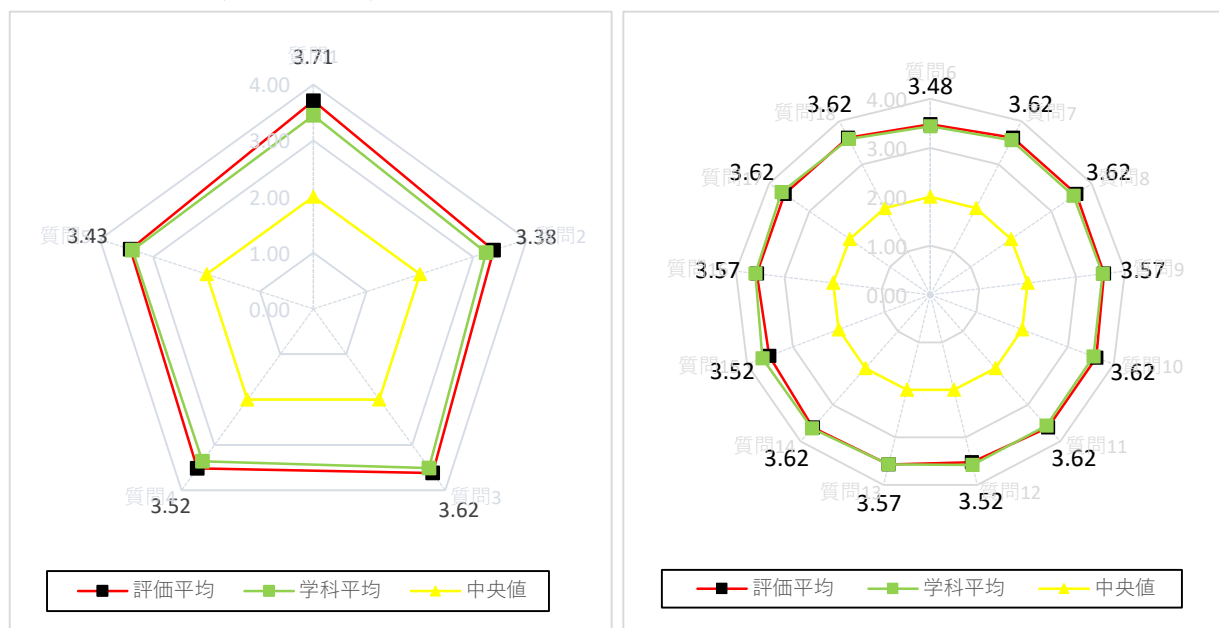
- ・コロナ禍においても可能な限り学外での実習が継続できるように働きかけを行った。
- ・学生自身が実習に臨む態度の評価も、実習に関する評価もおおむね高かった。
- ・一方で、シラバスに関する質問は低値であった。学外での実習が中心であるため、シラバスを活用する範囲が限られたと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・次年度よりコロナ2019への対応が変更となる。このため、状況に応じた対応を教員一同で考える。
- ・回答率は95.5%であった。次年度も維持できるように学生への周知を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅳ-2	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

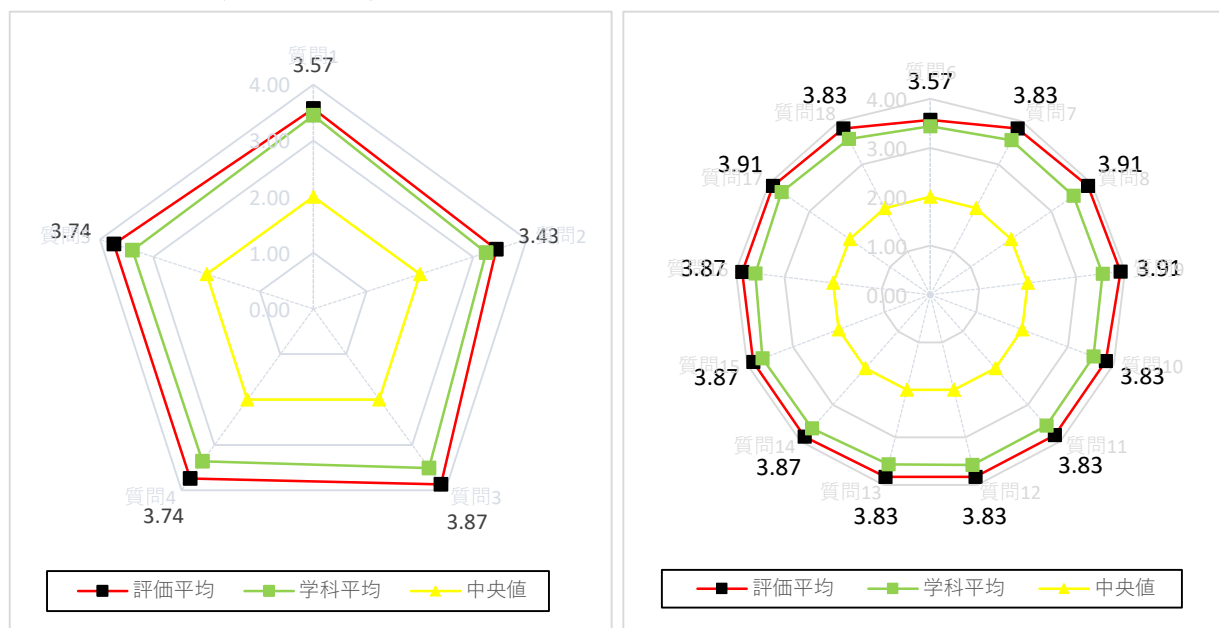
- ・コロナ禍においても可能な限り学外での実習が継続できるように働きかけを行った。
- ・学生自身が実習に臨む態度の評価も、実習に関する評価もおおむね高かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・次年度よりコロナ2019への対応が変更となる。このため、状況に応じた対応を教員一同で考える。
- ・回答率は91.3%であった。次年度も維持できるように学生への周知を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅲ	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

回答率：59.0%（23名/39名）。

学習者の総合自己評価（質問5）：良好 73.9%（17名/23名），概ね良好 26.1%（6名/23名），やや不良 0%（0名/23名），不良 0%（0名/23名）。

講義の総合評価（質問18）：良好 87.0%（20名/23名），概ね良好 8.7%（2名/23名），やや不良 4.3%（1名/23名），不良 0%（0名/23名）。

自由記述：「実習の際の成績の基準ですが、実習先によって、評価の基準が異なることがあるため、実習地の評価の基準を合わせるべきだと感じた（1名）」「特になし（1名）」。

(3) 次年度に向けての取り組み

回答率は59%と低値を示した。

臨床実習終了後に学内で開催する「実習後セミナー」開始前に「授業評価アンケート」への回答時間を設けている。

一方、臨床実習期間中には、全ての実習施設への訪問を行い、全学生の臨床実習の進捗状況を教員が確認して教員間で共有している。

加えて、臨床実習終了後には、臨床実習後のセミナーを開催して全学生の経験内容および経験症例を提示させ、学生間、学生・教員間で共有している。

また、全学生を対象に、担任・副担任で、臨床実習後に個人面談を行い、臨床実習の成果および課題を確認して課題に対する対策を学生と協議している。

さらに、実習施設における課題は整理して、必要に応じて実習施設に連絡・協議し、必要に応じて次年度の学生担任に申し送っている。

一部に「実習施設ごとで評価基準が異なる」との意見があるが、各実習施設に向けては統一の評価指標（チェックリストを含む）を送付して、実習指導者からの報告を求めている。